

三商同窓会報



No.62

令和6年8月1日発行

ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



令和6年度新年会 於 門前仲町東天紅



ぐあいさつ

見返りを求めない親切



同窓会会長
第31期 三浦康二

私達、同窓会の活動は皆様で協力して、助け合っ
て楽しく母校三商の伝統と誇りを持続してまいりた
いと思います。

ここでロシアの物語を紹介します、現在のロシア
のウクライナ侵攻をみるとロシアにはこんな児童書
の気持ちになってくれれば良いのと思います。ロ
シアには「100ルーブルより100人の友を持って」という
諺があるようですが、物語の本の題名は「ハリネズ
ミと金貨」です。

ハリネズミが森で金貨を拾うのですが、交番に金
貨を届ける事が思いうかばないほど生活に困ってい
ました。拾った金貨で冬仕度のためにリスから干し
きのこを買おうとします、しかしハリネズミがはい
ているぼろぼろの靴を見たリスが、その金貨で靴を
買うのに使えばいいと気づかい、干しきのこをプレ
ゼントしました。

ハリネズミが靴屋を探しているとカラスに出合
い、カラスは上手に嘴でどんぐりを削りハリネズミ
のために靴を作ってくれました。金貨を差し出して
もそれで靴を買うのに使ったらいいと受取りませ
ん。そして今度はクモに出合い、糸で上手に編んだ
靴下をただでもらいます。

最後のページにはハリネズミが雪でおおわれた巣
穴の中でリスからもらった干しきのこが吊るされて
いて、ベッドにはクモからもらった靴下がかけてあ
り、そばにはカラスが作った靴がそろえてあった。
みんなのやさしさが詰った部屋でハリネズミが安心
して冬眠している。

この森の動物達のように皆で協力して助け合っ
て、それぞれが自分の得意な事を活かして、又見返
りを求めない親切な行動。最後にハリネズミは「誰
かの役に立つかも知れない」と言って金貨を森に返
して物語は終りになる。

私達三商同窓会も見返りを求めず、助け合っ
て、親切な行動で常に母校のために活動をしてま
いりたいと思っております。

ぐ 挨拶



都立第三商業
学校長 山田和人

初代校長・吉澤徹先生が掲げた「リトルゼントル
マンを育成する三商教育」との教育方針、そして校
歌の歌詞「都の空は明けたり今 希望は燃ゆる若き
われら 都立第三商業ここに拠るや 日本の富を担
うわれら」に込められた言葉に、第二十二代校長と
して就任以来、三年目を迎えておりますが、日々、
身が引き締まる思いでございます。

三商は、生徒達が希望に溢れ、互いに切磋琢磨し、
日本ひいては世界の富、繁栄を担うべく、人のため
に尽くす人材を輩出する使命があると、痛感してい
ます。

本年度は、東京都教育委員会から「ビジネス人材
育成推進校」「海外学校間交流推進校」を受けました。
こうしたことを踏まえ、さらに教育力を高め、グロー
バルに活躍する人材を育成すべく教育活動に邁進し
ているところです。

また、レスリング部は本年六月に関東大会初勝利を
飾りました。このように、目に見える形で日々の教
育活動の成果が上がっていることも頼もしく、心強
く思っております。

これからは、さらに、足元を見つめ、新しい可能性
の開花に主眼を置き、一人一人に生きる力、自信を
与える「誰一人取り残さないきめ細やかな教育」を
構築していく所存でございます。

今後とも、三商同窓会の皆様のお力をお借りしなが
ら、「リトルゼントルマン、リトルレディ」を育成
する三商教育を継承、発展させてまいります。どう
ぞ、お力添えのほど、宜しくお願い申し上げます。

ぐ 挨拶

公益財団法人東京三商会 理事長
第26期 杉本光男

日頃より当公益財団法人東京三商会の事業にご支
援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。新型コロナ
ウイルスもようやく治まり日常生活が戻ってきま
した。

さて当財団の近況ですが、本当に多くの同窓生の
方のご支援があり、奨学金給付事業は順調に進み、
令和5年度の目標50名を大きく上回る60名を surpass
することが出来ました。本当にありがとうございます。

また当財団の事業としましては奨学金給付だけで
したが、新たに海外研修に関わる費用の一部を補助

することができないか検討することになりました。なかなか認可をしてもらうにはハードルが高いのですが頑張りたいと思っています。若いうちに海外に出て見聞を広めることはとても良いことだと思えます。

将来社会に貢献でき、優秀な人材育成の支援事業になるよう粛々と進めてまいりますので、皆様方の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。

公益財団法人東京三商会
新理事のお知らせ

平素より、三商同窓生の皆様方には財団法人東京三商会の活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、財団理事の任期満了に伴い、新任、再任含め左記のように理事を選任いたしましたのでご報告申し上げます。

代表理事
常務理事
理事

監事

- | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|
| 古田勝一 | 谷口俊二 | 吉井康雄 | 佐竹とし子 | 浦部利明 | 山田和人 | 河原田一郎 | 小森輝於 | 尾坂富美子 | 岩瀬和子 | 渡邊秀明 | 西邨昭一 | 土方敏之 | 杉本光男 |
|------|------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|

第21期特集



三商の思い出

第21期 青木 安規子
(旧姓 柴田)

今年は二十一期との事。皆様のご様子を楽しみにしております。八十八才になり文章が書けず、ただ思いついた事を書きます。

私達入学した時は女子が四十名位だったと思います。

男女組は二組で、一年の時は矢島先生「おすし」を「おしし」と発音され、絵が趣味だったと思います。二年は椎名先生（そろばん）三年は小西先生。女の先生は伊藤先生で聡明で歯切れがよく、着物袴で国語を受け持つて私はすきな先生でした。

クラブ活動では簿記部に入り、三年生の岡野さん砂村さん、新里さん、二年生では名前は忘れましたがコッペさん（コッペパンをよく食っていたので）大変お世話になった事、紙面にてお礼申し上げます。今でも両国のおそば屋さんでお集りの事。うらやましく思います。

私は目立たない人なので、思い出さないといいませんが、岡本さん、金子輝夫さん、勝田さん北村慶子さん、吉田豊子さん、大島政明さん、金子慎太郎（鳥越に居られた）新小岩のスーパールの金子さん等、簿記部に居ました。

二年の時は書道部（小暮先生）で朝早く練習していました。小暮先生は数学で繊細な感じでした。

阿部先生は物理で階段教室で背が高く、やさしい感じの先生でした。いつもお洒落な田部井先生、竹田先生、清田先生、今村校長先生等、頭に浮かびます。又、教室での「オシャベリ」が楽しかったです。

又、遠足で箱根の駒ヶ岳行きが、途中で神山に徒歩で登り帰りはバラバラでなんとか電車にのり帰った事等、今では考えられません。最後に皆様の御幸福とご健康をお祈り申し上げます。

「今だから話しましょう
矢島幸先生絵画展の裏話」

第21期 堀越 達也

昭和29年卒業の3年1組の担任でありました矢島幸先生の油絵の個展を、平成12年7月に「お江戸両国亭」で開催した時の報告は、すでに先輩方が同窓会報等に載せていますので、ここでは当時の事務局を代表して裏話などを報告させていただきます。

矢島幸先生は、卒業以来私たちのクラス会に、毎回のように出席いただき、ある時、85歳になられる先生が描かれた油絵が沢山あると聞き、クラス会メンバーの大村、村上両君と先生のお宅へ伺い、絵画展を開こうということになりました。

無謀にも絵画展など経験も無いし、クラス会メンバーが中心となり事務局を務めて準備にとりかかりました。

まず会場に日比谷公園の緑の展示場や上野公園内の展示場、銀座のギャラリー、千代田の区民会館など10か所程回り、展示期間や会場費、案内状などのことを考えると、クラス会メンバーだけではとても無理と考え、先生のご指名で先輩に世話人代表になつてもらい、世話人会を開き、約1年かけて準備を進めてきました。

先生からは、三商以外の教鞭をとった生徒の住所録、絵画の目録などを預かり、郵便局には、「ミユ

キ カイ」の口座を開設して協議を重ねてきました。銀座の画廊に言わせると、素人の絵20点など、とても売れないよといわれました。最初予算は20万円位と考えていましたが、驚いたことに200名を超える方から協賛金とお祝い金が100万円ほど集まり、売れないと言われた絵画34点は完売してしまいました。

画廊からは絵画の値段は有つてないようなも聞いていましたので、三商で学んだ商才＝悪知恵を発揮し、売れそうな絵に売約済みと思わせる赤いシールを貼り、別の絵を売りつけ、そのあとにそつと赤いシールを剥がして、つぎつぎと完売させてしまいました。

絵画の代金は展示会前日の夜、額縁の大きさと絵画の宅配料で決め、先生の絵の描き賃はほとんどありませんでした。これを聞いた先輩は、先生が実際に各地に行かれて描かれた思い出の絵なのに失礼ではないかと叱られました。が後の祭り。

しかし、奥様は、あの絵を、また持ち帰ったら置き場所に困ると言われていたので、かえって喜んでもらえました。

ところが、事務局の手違いで、一枚の絵を二人に売り捌いてしまい、取り合いとなつてしまった。これを聞いた矢島先生が中に入り、結局、先生が富士山の絵をもう一枚描くことになりました。このときに先生に「絵の注文が入りましたね」と言ったとき、先生のなんとも言えない笑顔を忘れることはありません。

また、収支計算書を作成したところ、かなり赤字になりましたので、これで事務局員の慰労会をやることにして、会場も予約し、落語家を呼び準備をして、収支計算書を作り直したら、これが先輩にバレ



てしまい大目玉。しかたがないので、また収支計算書を作り直して残金と共に、先輩に連れられて先生のところを持って行きました。

ここからは「今だから話しましょう」、何とか盛大に慰労会をしたいと思い、先生や先輩に気づかれないうちに、後日、先生の長男に、あの残金を使って「先生主催」でみんなの慰労会をしたいと話を持ち掛け、賛同を得ることができました。当然、段取りは事前に事務局員がしていましたので、先生のご家族

矢島幸 絵画展



皆様のお越しを心からお待ちしております。上げております。

平成12年7月20日(祝)～22日(土)

午前11時～午後7時

都立第三商業高等学校

矢島幸絵画展

森田山麓 16階

同窓会代表

福原達也 21階

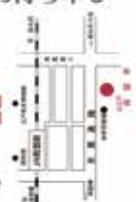
会場 お江戸 両国亭

〒110-0026

墨田区両国4-30-4両国武野マンション1階

TEL.03-3625-7985 交通 京成武蔵野線両国下車 徒歩5分

(両国駅西口から徒歩10分) (京成武蔵野線16階)



も交えて予定通り盛大な慰労会ができました。その後矢島先生は、平成12年秋に「勲五等双光旭日章」を受賞されました。

奥様からは、あの絵画展は主人にとって「生前葬」をみなさんにして頂きありがとうございますと云う、お言葉をいただきました。

また、矢島先生を「懐かしむ会」を開催したときに出席して頂いた、教職に就かれておられる長男から、親父は、みなさんとの生徒と先生の関係は、まさに「教師冥利に尽きる」との言葉をいただきました。ここに謹んで矢島幸先生の歳を超えた、米寿の生徒から報告させていただきます。

21期生あれこれ

第21期 牛野 くみ子

21期生は学校を卒業して70年。

ほとんどのの方が88歳、またはそれを超えました。

ゆつたりとあちらでお過ごしの方もおられますし、まだまだこの世も捨てたものでないと頑張っておられる方も多数いらっしゃいます。段々と交際範囲も

狭められてまいりました。お書きくださる方が多数いらっしゃるとお伺いしましたので、そのうちの一文に付け加えていただければうれしいです。

私は干潟保全に関わり50年が過ぎました。

埋め立てられようとした大蔵省水面を、私たちは谷津にあるから谷津干潟と呼び、鳥の来る干潟を、ラムサール登録させました。すでに30年以上も前のことです。

現在、千葉県船橋市、市川市、浦安市前面に広がる三番瀬(海の名)のラムサール登録を目指して署名活動を展開しております。

東京湾の干潟・浅瀬は90%以上が埋め立てられました。わずかに残った三番瀬や木更津にある盤洲干潟(ばんす)がかるうじて潮干狩りなどを楽しめる場所として残っています。

春の潮干狩り秋のハゼ釣りと千葉県はおるか東京からもたくさんの人でにぎわいます。都心にありながら漁業も生業として行われています。

日本でわずか700羽と言われるミヤコドリ(英語名オイスターキヤッチャー)なんと三番瀬に500羽以上も来ています。それだけ餌が豊富と言えるでしょう。

木更津には鳥のミサゴ(英語名オスプレイ)が何羽かいます。ほかには、エンジンがついた大型の鳥? もいるよと言え皆さんお判りでしょう。

ラムサール条約なんてあまり聞きなれないという方もおられますが、これは世界的な条約です。正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」なんて長つたらしい名称です。鳥

から始まりましたが現在では、植物、魚類、農業、地形などを含み、湿地の保護を目指しています。

千葉県のお隣、東京葛西臨海公園は2018年に登録され、2024年現在国内53か所の登録湿地が



三番瀬に集まるミヤコドリ

あります。
登録されるとどんな良いことがあるかって。世界的に名前が知られ、関心を持っていただけです。例えば、シギ・チドリという鳥がいますが、多くはシベリアやアラスカで生まれ、夏の終わりから秋、日本にやってきます。ここで滞在したのち、東南アジアやオーストラリア、ニュージーランドまで飛んで冬を過ごし、春また帰ってきます。飛行距離で1m越すものもいます。シギ・チドリ類はほとんどが泳げないので干潟が必要です。こんな小さい生き物がJALなみに燃料も使用せず飛ぶなんて脅

威ではありませんか。燃料は干潟でついでに餌です。オーストラリアから飛んできたけど餌場がないなんてことの無いように。
物言わぬ小さな命を守ってあげたいです。今ある干潟をラムサール登録するために皆様のご協力(署名)をお願いする次第です。よろしくお願いいたします。

21期特集号に向けて

第21期 栗原 幸一

私は都立三商21期卒業の栗原(くわはら)幸一です。今回、21期特集号の同窓会報発行とのこと、大変嬉しく存じます。自己紹介がてらに投稿します。

1 写真説明

2枚同封の独りの方は、私の近影です。二人の方は、三商同期の堀越達也君と二人で、昨年ツアーに参加



して「天の橋立」で撮った物です。彼とは数回、二人旅をしています。

2 私の履歴書

私は、昭和10年7月、深川木場の小さな木材商の



長男として此の世に出て来ました。記憶が残る5歳の頃、即ち昭和15年は皇紀2600年の祝典があり、その頃の日本は、まだまだ隆盛だったので市電には花電車も出てネオンも輝いていました。食事も事欠かなかったのです。でも、その1年後の昭和16年には、第二次世界大戦に突入、時代は大きく変わっていったのです。私は、当時は健康が思わしくなく虚弱児童扱だった為、小学校(当時は国民学校)一年生の中頃から茅ヶ崎に在った「白十字会林間学校」と言う寄宿制の学校に預けられました。今で言えば「NPO」みたいな処と思います。

一年生から六年生まで同居の寄宿舎制の学校で虐められましたが、いろいろと学ぶものもありました。茅ヶ崎海岸で地引網なども楽しみました。然

し戦火は急速に拡がり空襲警報も頻発、米艦載機の急降下爆撃や機銃掃射も受けました。

昭和20年3月には実家が空襲で焼けて父と母は命からがら茅ヶ崎にやって来ました。白十字会の学校は極めて親切に、そして素晴らしい対応で迎えて呉れて、父母を部屋を与えて呉れて食事も食べさせて頂きました。処がその3月末には、その学校自体が学童疎開の対象となり新潟県の六日町（現在は南魚沼市）に行くことになりました。幸い母も一緒に行くことをOKして呉れて学校の方で農家の蚕室を借り受けて下さり、其処で母と妹と3人で蚕室暮らしが始まりました。

その後終戦となり、その年の11月には、父が借りて呉れた辻堂駅前に移ったのですが、この六日町でのたった8か月に、都会生活では知る由もない多くのことを学びました。先ず「魚釣り」を初めて試みました。「鮒、たなこ、はや」などの小魚ですが、そして畑の野菜、トマト、キュウリ、ナス、ゴマ、ゴボウ、小豆、大豆、etc。都会住まいだったら決して見られない区別もつかないこと。そして、田圃では泥鰯取り。田圃の畔は大豆が植えられていて、お米は統制の為、農家も余り譲っては呉れないのですが、大豆なら頂けるので、この大豆を持って豆腐屋に行くとう豆腐に変えて呉れるし町に行つて味噌製造の処では味噌に替えて呉れるので泥鰯豆腐味噌が揃えば立派な「泥鰯汁」が出来るので「動物性蛋白質」の補給!!また蚕も「やご」を貰って毎朝、桑の葉の水気を良く拭き取つて与えると蚕はどんどん成長して、やがて「繭」を作り、そして「蛾」が出てきて卵を産み、それが孵つて、また「ヤゴ」になる。足長蜂の巣を叩き落して、巣に附いて蜂も落ちて来るが暫く放置すると蜂は諦めて何処かに行つて仕舞

うので、その蜂の巣から「蜂ノ子」を取り出してこれて魚を釣ると、とても良く釣れる、などなど。そして終戦。辻堂駅前の間借り生活。薩摩芋は芋だけではなく「つる」も食べる。借間この台所は仮設の台所なので燃料は「薪」。小学校4年生で「まさかり」を振りかざしての「薪割り」。今だったら「危ない危ない」と言われて。遊びがてら隣の藤沢に行くのは、当時は列車の切符も簡単に買えないので歩いて行くのに線路の上を歩いた。駅員も「それが一番近い!」と言つて黙認。今だったら「線路に人立ち入り」で列車がストップの筈。

5年生の2学期の終わり頃に戦前住んだ木場に父が家を建てて呉れて、東京生活に戻つた。でも近隣は焼け野原。食料不足は鶏を飼つたり、焼け跡に疎開で覚えた知恵で野菜を育てたり。数矢小学校 深川三中を経て都立三商へ!!朝鮮半島の戦火の頃から日本も復旧の兆し。

三商を卒業して直ぐ青山学院大学に進学。青学大卒業と同時に三菱商事に入社。それから40年同社に勤務して常務取締役まで勤め上げました。三菱商事在任中は、南米チリのサンチャゴに2年少々、其処から直接米国のニューヨークに転勤して、其処で4年弱。一旦帰国して僅か2年で今度はフランスのパリに転勤。パリは5年弱勤めました。南米・北米・欧州ですから、公務や個人旅行も含めてアチコチの国を訪ねる機会がありました。最終帰国後も東南アジアを含めてアチコチ訪ね、これまで62カ国地域を訪ねました。三菱商事退任後は、学校法人青山学院の常務理事や校友会副会長なども務めました。目下は完全フリーの年金生活です。

3 都立三商の思い出

生徒会では、総務委員長をやらせて頂きました。大きな思い出は、職員室に山積みされている三商内での遺失物を、文化祭で処分した方が良いと考え深川警察署に行つて法的に問題無いかと尋ねたところ、1年以上経過した物なら処分（校内で販売）しても問題ないとの許可を得て、文化祭で大安売りをして処分したことです。

4 その他

都立三商時代の、当時の名簿や、三商30周年記念の小冊子など、多少記録に鳴るものを持っています。お役に立つようなら提供します。お陰様で目下の処、歳年りの障害は有りますが、まずまず元気になっています。同窓会報の作成、有難うございます。厚く御礼申し上げます。

以上

2014. 4. 9

東京 幸一 様

入学式の思い出

第21期 大類 弘子
(旧姓 平本)

これを読んで下さる殆んどの方がまだ生まれていなかった頃の話を知ってください。

私達21期生の都立第三商業高校の入学式です。

古い話で恐縮ですが昭和20年3月9日夜半からのアメリカによる空襲(第二次世界大戦)で東京下町の大半が焼け野原になりましたが、我校は被害を受けませんでした。その為、焼け出された近隣の住民の方々の避難場所になったのです。3月中旬の東京はまだまだ寒い日もありましたので体育館の椅子(木製)は暖を取るために使われてしまいました。

入学式の時点で私達の腰掛ける椅子が一脚も無く、床に正座したのです。

こんな体験は今ではビックリですネ!

現在では良い意味で過ごし易い世の中と思われませんが困った事も多くなりました。

我々の暮らす大事な地球がだんだん壊されています。目先の便利より10年、20年の便利を優先する考え方の出来る人間になって頂きたいのです。

※編集部より

大類さんより、いくつかの21期の同期会写真をお預かりいたしましたので、続けて掲載させていただきます。

※特集表題下のお写真も大類様からの物です。



思い出人生いろいろ

第21期 山崎 喜朗

縁故疎開（戦前）

実家は田舎が無く、隣家の家族と一緒に自分一人（5才）が、群馬県中之条町に疎開する。

眼前に榛名山が大きく横たわり、自然に恵まれたのどかな所でした。溪谷で水泳覚える。

野球教室

小学生の頃、地元錦糸公園にて巨人の青田外野手と千葉内野手のコーチを受ける。

野球見物

5円を持参し後楽園へ行く。行き水道橋まで1円。野球場入場料3円。帰りは徒歩で神保町、浅草橋と返すから、屋台で駄菓子を買いながら錦糸町まで帰宅する。

手作りボール

小学校、中学校共に校庭が狭く、キャッチボールしのできなかった。そこで小石、綿、8の字布2枚で飛ばないボールを作る。バットを木材で作る。放課後、毎日友達を集め野球を楽しんだ。

卒業記念旅行（三商）

クラスメイトの河野・出口・北本・植草 等と東北方面に行く。袋田の滝の滝壺までクサリを使い降りる。金色堂の目映い輝きに驚きを覚えた。

社会人に

腕時計のSEIKOに入社。生産管理部門に配属。CPU化ならびに作業標準を作る。苦しみ色々ある中で楽しみ作る。時計コンクールで世界一になる。

富士山頂へ

20才記念に富士登山行。この頃はバスが3合目で終点だった。カンテラを頭にひたすら歩く根性が必要。眼下に雲海、御来光を迎える。感銘する。

昭和天皇工場参観に訪れる

海外工場設立相次ぐ

東南アジア方面にグアム島、台湾、香港、中国（杭州）、タイ、シンガポール等それぞれ複数回訪れる。

初めての海外へ

グアム島でチャモロ族による歓迎パーティでヤシの木の下の豚の丸焼きを食す。

翌年に横井さん現る。

香港での出来事

大飯店で現地仲間10数名と会食中に隣のテーブルにギャングの殴り込みがあり一時店内が騒然となったが、無事に治まる。

後の話して隣のグループは香港映画スター達の集まりであった。

小学4年生の孫娘

神宮野球場でヤクルト対DeNAの試合前のセレモニーにヤクルトの2塁手と孫娘をグラウンド2塁位置にて記念写真を撮る。スタンドインボールをゲット

する。

飛行機事故発生（カナダ）

バンクーバー離陸後1時間過ぎた頃、機内アナウンスで異常発生引き返す。燃料空中散布する（窓から見えた）との事。一時不安になるが、無事帰国する。

奇なる出来事（TV放映される）

50才頃、夫婦で銀ブラ中和光の前でインタビュー受ける。テーマ“良い夫婦とは”。その後20年余り経った時に娘親子が後楽園に野球見物した時にインタビューあり。テーマ“野球ファンについて”でした。

奇しくも2度共某テレビ局の同一番組でした。

ゲートボール（老け防止）

64才から始め、初歩から勉強する。いろいろな大会に参加したが、その内市川・船橋合同大会と伊豆稲取大会、両大会共に100チーム参加するビッグ大会で優勝する機会があった。

旅行が大好きだ

国内、海外含め数多く訪れる。主なもの 国内では九州・四国… 海外はサンフランシスコ、ヨセミテの滝・アトランタ、カナダではナイアガラの滝・コロンビア大氷原

バンフの中世のお城のホテルなど。ハワイには孫達と一緒に二度行く。

米寿祝い

昨年、長女家族が宴席を設けてくれた。曾孫と一緒に記念写真です。



祝 米寿 令和5年6月25日 木曾路 幕張店にて

同窓会ホームページから

第21期 高野 昇

※編集部より

日頃より、ホームページに多数ご投稿いただいている高野さんから、21期の皆さんの投稿が集まっているか気をもまれ、少ないようであれば、いくつかを抜粋して記事としてくださいと、以前ホームページにご投稿いただいた寄稿文をお送りいただきました。皆様の記事も多く集まりましたが、折角ですので、頂いた記事全編を掲載させて頂くことといたしました。

消えた「昭和」の遺産：

通学時に時々乗った都電38番

▼今は荒川線のみとなった「都電」についての記憶です。三商通学時は住まいの亀戸から25番（西荒川（日比谷）29番（境橋）須田町）ときおり来る38番（錦糸堀（日本橋）系統で一つ先の錦糸堀下車。この区間は途中停留所がなく国電の駅区間をそのまま走る都電の停留所区間としては珍しく長く、当時のマンアの間では話題になっていた。

▼錦糸堀車庫から出てくる28番（錦糸堀（都庁前）の始発に乗り換えて富岡町まで。28番は途中に高校が多く、千田町に化学工業高（現大江戸高）東陽町に深川高、富岡町の三商、その先の永代橋には私立中央商業があり通勤客を交えてかなりの混雑だった。そこで少し早く家を出た日は亀戸から逆方向の38番の日本橋行き乗っていた。定期券範囲外なので10円の運賃が必要だった。これだと錦糸堀で乗り換える事も無く真つすぐ富岡町へ。

▼38番は千葉街道（国道14号）を少し走り精工舎前



海拔0メートル地帯（水神森～大島間）の堅川の専用橋を渡る38番（日本橋行き）

▼仙気稲荷辺りから再び専用道に、ここは完全な専
 の水神森を右折し専用道を進るものの専用道とはい
 え人・自転車・軽三輪などは通用可、左右は民家。
 大島（オオジマ）に入る堅川を跨ぐ専用橋を通過（写
 真）する都電の姿はなんととも言えぬ風景だった。美
 しくも無い、きれいでもないこの景色は当時の庶民
 の生活そのままでも記憶に生きている。大島か
 ら一般道の明治通りに出て小名木川の進開橋を渡れ
 ば砂町で「砂町銀座」と知名度のある商店街は当時
 からあり、ごく普通の商人が軒を連ねる買い物通り
 だった。



誰もが見た運転コントローラー
 38番車輛1500形のもの、イギリス製

用道でかなりの急カーブがあり都電の窓スレスレに
 汽車製造会社があった。国鉄亀戸駅からここまで貨
 物専用の小名木川線（現・越中島線）が敷設されて
 いてSLの製造・保守・点検などで江東区内では最
 大の工場、あの新幹線車輛の0系はここで製造され
 た。この小名木川線の下を都電がくぐった時、偶然
 SLが白煙を穿いて走り去った光景は今も色褪せ
 たセピア色となって頭に残る。現在は高層アパート
 が林立しかつての面影はなくともこの越中島線の下
 をくぐる場所は今遊歩道となって存在していかつ
 ての38番の名物箇所として名を留めている。使用し
 ていた車両は当時の形としてはかなり古い物が使わ
 れ、都電のローカル線と言ったところ。それもまた
 “良し”と思いつつ時々乗って通学していた。

▼40数系統あった都電の8割近くは走破しているが
 その中でも身近を走っていた路線、38番と単独路線
 の26番（東小松川〜今井）系統は印象に残る路線で
 あった。S17年に都が買収するまでは私鉄の「城東
 電車」で私が生まれた時には錦糸町駅前の交差点に
 進出した「白木屋デパート」の一階が終点、今でい
 えばターミナル駅であった。その頃は車輛も木造で
 二本のポール、二軸四輪で通称マッチ箱、遊び仲間
 同士で「名前は上等（城東）電車はポロポロ」なん
 て言っていた。通学時に乗ったのは1500形のは
 ず。都電について書き始めるとキリがない、この辺
 で。

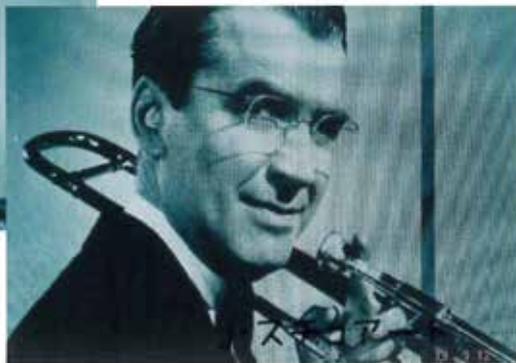
私の中の名画と名優たち

ジェイムス・スチュアートと「グレン・ミラー物語」

▼私達が若い頃、映画を夢中で観ていた当時の俳優
 は殆どが戦前からの役者たちだ。J・スチュアート



J・スチュアート



G・ミラー

しかり。少年時代から飛行機のパイロットを夢見て
 おり、のち飛行免許を取得、そんな彼が「翼よ！あ
 れが巴里の灯だ」で飛行士リンドバーグを演じたの
 を生涯最高の役だったと自叙伝に書いている。第2
 次大戦では現役のパイロットに志願し、B24爆撃機
 を操縦しドイツ軍と戦い活躍、のち空軍少佐の勲賞
 をうけている。バンドを率いて戦線の各地を回り指
 揮を執っていた軍服姿がカッコよく、十数年後のア
 カデミー賞でのプレゼンターとして登場した時は軍
 服を着て仲が良かったゲイリー・クーパーに賞を渡
 していた。大戦後の活躍の中では戦争映画にはオ

ファーが来ても一切出演を拒否したとも書いてい
 た。いかにも彼の思想、人への思いやりなど「アメ
 リカの良心」と言われていたのにも納得できる。演
 劇スクール時代に気こころを通じ合った友人にヘン
 リー・フォンが居た。

▼「グレン・ミラー物語」は1955年頃の正月に
 ロードショーされた筈で日本でのアメリカンポピュ
 ラー曲の全盛期でG・ミラーサウンドはFEN
 (fore east network・在日外人向け
 の放送)でB・グッドマンとともに良く聞いてい
 映画の中での素敵なシーンです。
 結婚記念日のパーティーでジルバを
 踊る二人。
 ジョーン・アリスンのスカートが綺麗
 に回る軽やかさ。わたしのお気に入り
 シーン。



たので、より公開が待ち遠しかった。ドラママーのB・ボラック(この映画に自ら出演)に認められ、またひよつとした事で生まれたG・ミラーサウンド、フルバンドの基本であるトランペットとサクソスのミックスをふとしたキッカケでサクソストとクラリネットとの穏やかに流れるようなミックスと音色に気付き、あのG・ミラーサウンドが出来上がる。そういえば彼の曲には静かでリスリング的気分を多分に含んでいて「コーヒーをもう一杯」飲みたくなる気持ちを誘う要素がある。禁酒時代のジャズクラブでのルイ・アームストロング、ジーン・クルーパー、そこにG・ミラーが加わってのジャムセッション、当人の音は勿論吹替ではあったが、築地の「東劇」でみた1955年頃の正月、観おわって劇場を出た夕暮の銀座の街並、その楽しさと感動とスクリーン上での雰囲気は、今もDVDで再現し楽しんでる。劇中、結婚記念日を祝うパーティーで二人がジルバを踊る場面、私が大好きなシーンでも時折DVDでそのシーンだけを観ることがある。J・アリスンのスカートの回転の鮮やかさ、美しさは「ペンシルバニア6―5000」のリズミカルさとマッチして楽しいシーンだった。

▼共演したジューン・アリスンについて少し。彼女はJ・スチュアートとの共演が多く、私が最初に観たのは「甦る熱球」というメジャーリーグ野球を扱った映画、怪我をし大リーグ復活に全力をそそいだ夫婦愛のものだが、あまり詳しいストーリーは記憶にない。マーガレット・オブライエンやジャネット・リーと共演の「若草物語」、ジーン・ケリー主演の「三銃士」など鼻の上に小皺を寄せての笑い顔が素敵。少ししや枯れていた何とも言えぬセク

シーな声。目立った映画は少なかったが「甦る熱球」「グレン・ミラー物語」は印象深い。なんとも言えぬ夫婦愛を演じさせたら、この二人を置いて居ないと思う。私はこのご両人が私生活でも本当のご夫婦と思ひ込んでいた時期があった。2006年88歳で逝去。

▼J・スチュアートはあのヒチコック監督にも気に入られ、「裏窓」「知りすぎていた男」などにも起用され、「裏窓」ではモナコ王妃となったグレース・ケリーと共演、車椅子に乗っているだけの演技で犯人を突き止める役、「知りすぎ・・・」ではドリス・デイが共演して歌った・・・♪ケ・セラセラ・・・が大ヒットした。私の観たお気に入り名画のおよそ50〜60本の記憶メモ帖に記載されている中にはJ・スチュアートの映画がおよそ20本、ヘンリー・フォンドが10本ある。「アメリカの良心」と言われていた二人、自分の、映画に対する愛情がこの二人が教えてくれたものだったとしみじみと思う。異色西部劇の「リバティーバランスを射った男」なども印象が強く、1997年89歳で逝去。

私の中の名画と名優たち

「第三の男」とオーソン・ウェルズ

▼第2次大戦後、連合国軍(米・英・仏・ソ)に共同統治されていたウイーンを舞台にしたサスペンスものでこの映画、主役でも二枚目でもなく悪党役なのになぜか姿、形がいい俳優が出ていた。相手を小馬鹿にした笑みを浮かべながらのニヒルなハリー・ライムという役、オーソン・ウェルズ演じる偽ペニシリンを捌くこの闇のボス。後に米・英両国の超名優であることと論客である事を知った。主演のジョ



セフ・コットンに完全に喰ってしまい、J・コットンを単なる添え物にしてしまっていた。晩年、貫禄も出て日本のTVコマースヤル(ビール会社)に出たり、そのテーマ音楽がどこかの駅(恵比寿だったか)の発車ミュージックになっていた。彼の映画は「第三の男」意外殆ど見ていないが「白鯨」(G・ペック主演)で牧師の役で観たかな。「市民ケーン」な

る映画で主演しオスカー賞をとっている。

▼この映画の盛り上がり場面の殆どが夜間で、照明を効果的に使った撮影の場面展開など素晴らしい魅力に溢れている。この時代（舞台は1946年頃）ウイーンの夜の街角を照らすあれほどの電力がある訳はないが、そこは映画、風船売りが建物の影に現れその姿は見えずとも照明の影が建物の壁に映り、風船売りの人影がだんだんと大きくなる、その数秒間の時間が観客にスリルと緊張感を与える。

ハリイ・ライムが初めてこの映画に出現する場面、野良猫が薄明かりに照らされた靴紐にジャレつく、カメラが上に行き、そこに真向かいのアパートに住む老婆が開いた窓の灯りに照らされた顔、O・ウェルズ扮する交通事故で死んだはずのハリイ・ライムが現れ、薄笑いを浮かべたこの登場の仕方は正にサスペンス、そしてまた地下水道に姿を消してゆくシーンはカラー映画では絶対表現できないもので、モノクロだけのもの、スクリーン内でのアングルも芸術的で、現在も映画に関わる演出家、カメラ、照明に携わる若い人達に教科書的な存在として引き継がれていると思う。

ラスト近く、ライムが地下水道で友人と英国取締官らに追い詰められ、友人の拳銃で倒れる地下水道の中での照明とカメラワーク、拳銃の発射音の響き、地下水道の煉瓦を斜めに射す照明、マンホールの蓋を下から上げようともかく両手の指だけがスクリーンに映る、この地下水道での逃避と追跡の場面は素晴らしく、音響・照明・カメラ・O・ウェルズのおびえた演技が一体となっている凄い画面の連続。凶悪闇人間の最後らしい見事な場面だったと思う。

第三の男 サスペンスと影 そしてあの名曲も



有名なラストシーン

▼私の中の名画と名優たち（その3）

「スイスの鳩時計」を語った観覧者

▼この映画でのバックに流れる曲、全てが地元ウイーンのチターの演奏家のアントン・カラスが作曲、映画ではこの楽器以外は使われていなかった。映画のタイトルにそのチターの数十本の弦が映り、テーマ曲の演奏そのままに弦が動き、曲が流れる。当時誰もが知ってしまったこのメロデーは未だに名曲の極致の地位を確保し、ジャズではない、クラシックでもないし、オーストリアの民族音楽が基本にあつてのことか。A・カラス自身の作曲で民族楽器のチターの名を世界中に轟かし、A・カラスもその後世界的に著名となった。改めて聴くとチターの音色と共に映画の一場面、白黒映画の素晴らしさが

偲ばれる。前記したが駅の発車音楽としてアチコチの駅で使われていて、大阪の梅田駅で聴いたと鉄チャンの友人から聞いたことがある。私は日比谷線「恵比寿」で聴いている。実家近くの「パチンコ屋」もしばらく流していたがパチンコとはそぐわないのか、元の「軍艦マーチ」にいつしか戻っていた。あのメロデーとパチンコ屋とはアンマッチである。

▼この映画の見處の一つにラストシーンが有名であ



灯りに浮かんだ
ハリイ・ライムの顔
(オーソン・ウェルズ)

地下水道で撃たれ
倒れるハリイ・ライム



る。H・ライムの葬式墓地から彼の恋人が去る場面、見向きもせず遠方から撮影のカメラの脇に消えるまでの長い時間のワンカット、画面左隅に彼女を待つ男、ライムの友人で最後彼を射殺してしまったこの男を許せなかったのか、全く無視して去って行く、ただそれだけの1分10秒のワンカットで絵画を思わせる綺麗なシーンで、そしてENDマークとなる。このシーンを真似ての映画は数多い。有名な遊園地の観覧車の中で二人が初めて友人同士として話す場面がある。H・ライムが「イタリア・ボルジア時代の悪政はミケランジェロやダビンチなどルネッサンスを生んだ、スイスの平和と中立は鳩時計だけを生んだ」との台詞はO・ウエルズ自ら考えた台詞で、初見時の私には深い意味合いは理解できなかった。が大戦後の荒廃、国連4カ国に統治された虚しさ、荒廃した街、蔓延した闇商人と取引、軍病院から盗んだペニシリンを薄めて売る闇屋の元締めをする自分をミケランジェロごとき存在だと自虐的に言ったのか？後に名台詞である事と知った。そこまで役者に自由に言わせた監督キャロル・リードも凄い。

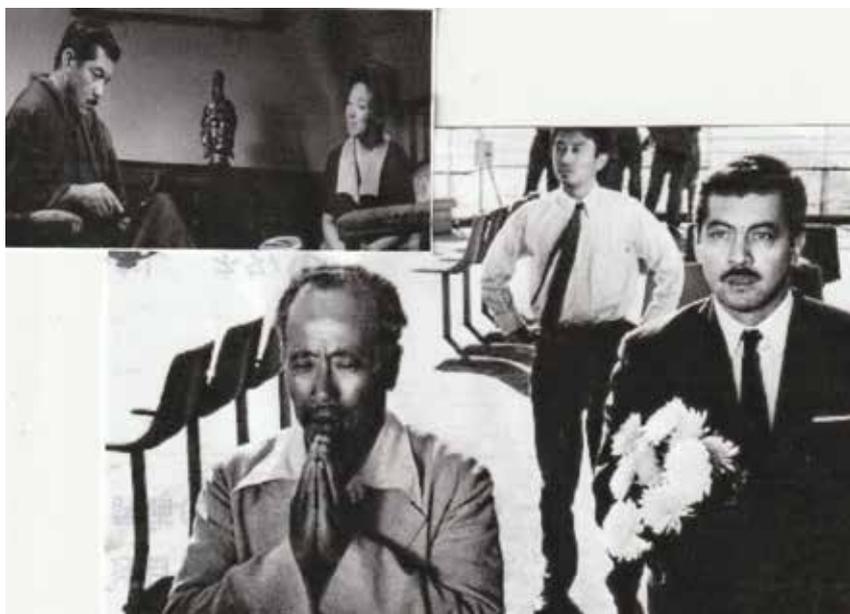
▼公開翌年の年のアカデミー賞の撮影賞を受賞（白黒部門）、カンヌ映画祭でもグランプリ受賞。製作50年後の1999年、日本の映画雑誌「キネマ旬報」で映画評論家による戦後洋画100選の1位となっている。「鳩時計だけ・・・」の台詞のあの観覧車（プラータル公園）も健在、アントン・カラスがオーナーだったチャターの生演奏が聴ける店も健在とか。昨日DVDを改めて見たがストーリーはともかくこの「第三の男」はカメラワーク、照明、BGM、脇役を含む俳優、監督などが全てにおいて、私の観た外国映画の中のNo.1の秀作である。

私の見た映画「ベスト3」

「飢餓海峽」

▼昭和39年の東映映画「飢餓海峽」で内田吐夢監督の作品です。錦之助、橋蔵、ひばりで映画を作れば間違いないくヒットし、他に片岡千恵蔵、市川右太衛門など豪華な俳優を抱えていた順風満帆の東映でしたが、時折社会性のある話題作も作っていました。原作は水上勉、映画は三国連太郎、左幸子、伴淳三郎など、若き日の高倉健も出ていました。

▼昭和26年9月に日本海、東北、北海道をマリー台風（15号）が襲いました。当時は台風の名を外人女性名で表現（国際的）し、そのあとは大きな被害を



もたらした台風には固有な名を付けています。「洞爺丸台風」です。ご存知のように転覆で1100名ほどの人命が船もろとも犠牲となりました。あの「タニタニック」事故に次ぐ大海難事件、事故でした。同じ日に北海道西海岸にある「岩内町」で火災が発生、台風の風と共に町のほとんどが消失、砂浜に避難していた漁船まで燃えてしまう大火災でした。だがこのニュースは洞爺丸遭難の圧倒的な新聞記事、ラジオの報道などでニュースとして小さく扱われ、私が知ったのも数日後の事でした。原作、映画は時代背景を昭和22年に設定しています。この2年前、日本は大戦に敗北、国土は焦土化し国民のほとんどがゼロかマイナスからの生活を余儀なくされ、空襲で家屋や家族を失い、夫や息子を戦地で亡くし、超インフレの闇市で僅かな食と職を求め、復員崩れのヤクザが増え、生きる術として街角にたつパンパン、この映画は混乱期の日本そのものでした。本来の「飢餓」がそこに在りました。

▼犬飼多吉（三国）は台風の日、岩内（映画では岩幌）の質屋を襲った二人組の強盗、放火犯の手助けをし、3人で荒れる海を小船で本土へ逃走、途中奪った金をめぐり仲間割れとなり、1人を海に転落させ、主犯格を殺害した犬飼は大金を手に入れた半島に苦難の末上陸します。この金がいかに悪にまみれた金であっても二度と再び転がり込む可能性はない、幼少期からの極貧に耐え、兵士として困窮を知り生きてきた中で人間の尊厳さを失っていました。この大金は失っていた人間の尊厳を取り戻す唯一の糧、つまり人生の大金でした。戦死者や焼死者の名を騙り、ナリスマシ戸籍を手に入れ舞鶴の地で事業に成功、社会福祉などの善行を重ね、地元の有名人

となりました。これは自らの尊厳を取り戻すいわば贖罪（しょくざい）行為で、彼は自分の心の飢餓を人々の喜ぶ様子を見て満たそうとし、満たされたのでした。

▼杉戸八重（左）も貧乏なるが故に親の借金の返済の為16歳で青森の大湊で花街の娼婦となり、ふとしたことで犬飼が客となる。このきっかけが森林鉄道の中で、八重が食べる握り飯に見とれていると八重が「食べるけー？」と差し出された握り飯が銀シャリで食べたことのない握り飯を貪り頬ばるこのシーンはまさに三国の凄まじい演技と迫力ある演技、あの時代の自分自身の小学生時の“飢餓”を思い出させこみ上げるものがあつたのを覚えています。一夜の名も知らぬ客犬飼が別れ際に新聞紙に包んだ大枚の金を八重にあげる、これは二日前に犯した罪への彼の初めての贖罪行為でした。八重は手にした大金で親の借金も返済でき、彼女は暗い思い出のある故郷を離れ上京します。上京はしたものの二十歳の田舎娘を混乱する東京はそう簡単には受け入れる訳もなく、池袋の怪しい「飲み屋」、そして最後は、かつて娼婦をしていたことを受け入れ雇ってくれたのが、下町亀戸の特飲街だった。この娼家の夫婦を演じた三井弘次と沢村貞子、いかにもそれらしい台詞の自然さ、立ち居振る舞いには恐れいりました。八重が娼婦になることは、かつてはこの仕事で親、兄弟を養いながら自らの生活も成り立っていたのでながら抵抗もなく受け入れてしまう悲しい行動は哀れさと八重の純真無垢な心につよく強く悲哀を感じました。その後10年近く亀戸で娼婦をし、ある日犬飼の慈善行為が写真とともに報道され、「間違えなくこの人だ」と確信、八重はただただあの時の礼が言

いたく舞鶴を訪ねます。「会ったことも東北など行ったこともない」とシラをきる犬飼、見覚えのある指の傷で問い詰められた犬飼は「今は樽見だが、実はあの時の…」と告白し、思いを込めて抱きすがる八重に犬飼は「あんたはほんまに心の綺麗なお方や、あたしは心に打たれましたよ」と言いつつ八重の首に両手をかけ力を入れました。犬飼の最後に言った言葉はこの作品が観客に一番伝えなかった思いが込められていたと感じました。あの日から10年後のことでした。

▼洞爺丸遭難事故の遺体引き取り手がいない2名に不信を感じた函館署の弓坂刑事（伴惇）が家族との生活までも犠牲にして、定年後も謎を追った末に辿り着いたのが舞鶴の犬飼、すでに樽見と名を変えてはいたが、絞殺され海に捨てられていた八重の懐に入っていた、あの一枚の金をつつんだ遭難事故翌日の新聞紙が動かぬ証拠となり逮捕となる。映画の展開では弓坂の10年間の聞き取り、裏どり捜査に少し無理なところもありましたが全体のスケールの壮大さと出演者の迫力ある演技を思えば許せます。この映画の凄まじいところは三国、伴惇のリアル過ぎるほどの演技と迫力です。晩年三国は「私の役者人生でこれ以上の作品はなかった」と言い、三国という役者の存在と偉大さを改めて再認識しました。あれから現在まで彼を超える役者は現れていません。伴惇の東北訛り（彼は山形生まれ）の台詞回しは彼が今までの喜劇の中で見せていたそれとはまったく違う存在で、朴訥で、真面目で、無骨で、執念深い刑事を見事にこなして、徹底的に監督から演技指導を受け「もう映画はやりたくない」とまで口にしたそうです。三国の演技と合わせて素晴らしいものでした。

目立たないシーンの中で舞鶴に自費で向かう弓坂にセガレがトボトボと駅に向かう弓坂に小遣いを渡すシーンは泣けました。京都府警の刑事役の高倉健がまるで大部屋の役者にしか見えなかったのは私だけだったでしょうか。お互いの飢えを癒しあつた二人がほんの少しのすれ違いで、贖罪と感謝を混ぜ合わせるうとしながらの事件。結局この二人は飢餓の海峡を渡りきれなかったのです。この映画は戦後の混乱の“飢餓”で始まり人間の心の“飢餓”で終わりました。犬飼は函館に護送される連絡船のデッキから、かつての共犯者が沈む海峡に自ら身を投じます。彼をしてこれがせめてもの人としての“尊厳”だったかもしれません。

▼この映画のロケが私の生まれ育つた、仕事場でもあつた亀戸の「亀戸天神」であり、現場を見ました。夜間ロケでしたが沢村貞子が扮する娼家の女将が店の女性たちを引き連れて境内の太鼓橋を渡るシーンでした。昭和22年頃はまだ木製の橋でしたがロケの時点ではすでにコンクリート製に架け替えられました。戦後は空襲や戦争で死亡か戦死かが判明せず戸籍謄本自体が空襲で焼失したものが多く混乱しており、そこに付け込んで所有者不明の財産や名義を盗む「なりすまし」が有った様です。犬飼も多分そうだったはずですし映画「砂の器」の主人公のピアニストもそうでした。

私の見た映画「ベスト3」

「青い山脈」

▼昭和24年に封切られた「青い山脈」です。原作は石坂洋次郎が朝日新聞に連載されていたもの。それも憲法発布後の翌月と聞いています。したがって昭

和22年頃と思います。東宝が映画化権を得たものの、当時の東宝は「東宝スト」で組合との紛争がニューズとなり嫌気をさした俳優たちが「新東宝」を設立、東宝自体がこの映画の製作に消極的となり、積極的だったプロデューサーの藤本真澄がわざわざ独立して製作した経緯があります。東宝はこの映画の大ヒットで後に藤本を東宝は三顧の礼をもって重役として迎えています。監督の今井正は後にあの久我美子、岡田英次の「また逢う日まで」を作っています。昭和24年頃に米国で施行された「レッドパージ」(別名マッカーシー旋風)に日本政府も同調を迫られ共産主義的社会主义思想を持った人達を公職から追放する所謂「赤狩り」です。そんな事でこの映画に乗り気にならなかった東宝には今井の製作思想に「赤狩り」の影を感じていたのかもしれない。「レッドパージ」で米国に居た芸能、音楽、文化関係者など多数が追放の対象となり、あのチャーリー・チャップリンもその一人でした。私の通学していた新制中学でも英語教師と社会科の先生が追放されました。それから3年後の三商2年の時に新小岩の薄汚い古い映画館でやっと観ることができました。封切時の評判の良い事は知っていましたが中学生など封切り映画を観られる年齢でもなく、友人と映画館の看板などで原節子の写真を見るだけ、「美人だなー」と友達と一緒に思っていました。昭和27年当時は、封切り後2、3週間過ぎたものを専門に上映する映画館が沢山あり、2本立ては当たり前でこんな映画館を二番館、三番館と言っていました。門前仲町の辰巳橋の袂にも「辰巳ミリオン座」という映画館がありました。今はスーパ一の「赤札堂」になっています。



▼ストーリーとしてはごく単純なものでしたが、新憲法が發布されて二年後に作られたこの映画、ある意味では新憲法の精神を国民に訴える国威向上映画に類するものでは？とも思われていたらしいのですが、ここに描かれ男女の明るい交際と新鮮さ、若い男女と一緒に街を歩きにこやかに会話する、一緒に自転車で走る、そんな解放感溢れる青春の姿をユーモアを交えて描いた今井正はその後も数々の秀作を作り、昭和30年前後の映画雑誌「キネマ旬報」が選ぶベスト10の1位に5回も選出されていました。出演者も今は懐かしい人ばかり、原節子、池部良(恋人同士役ではなかった)、杉葉子(ニキビが可愛かった)木暮美千代(あのホクロ)若山セツ子(眼鏡が可愛い)藤原釜足(何とも言えぬ味)伊豆肇な

ど。戦災で灰燼と化した都会から見れば日本の美しい山、川、そして海などを夫々にメリハリ良く表していました。戦時中までの日本の政府や軍部の強制、抑圧に我慢を強いられた国民に大きなインパクトを与えた作品だったと思います。三商2年当時の私も「民主主義っていいな」と思ったものです。政治的なメッセージやラジオの報道だけでは人はすぐには融合しない、できない、この映画は娯楽作品を通して判り易いメッセージを庶民に贈ってくれた作品でした、今思えば戦後の数ある、数あった青春映画の草分け的存在でもありました。

▼原節子はこの頃、三十歳少し前で年齢に応じた落ち着きと、その美しさに磨きもかかっていた時期で凛としていて、島崎雪子という英語教師役がピツタリでした。まだ若き池部良の青臭い動きと台詞の棒読み(池部は後年まで台詞が下手?だった)とは雲泥の差を感じましたが、彼の役どころの旧制高校生はそのバンカラ風な衣裳が似合い、数年前まではゲートルに重い軍靴だった頃の彼等と比して、いかにも開放された初々しい若々しい姿でした。偽のラブレターに端を発し女学校中が大騒ぎとなります。学校側と父兄会とが討論する中で藤原釜足が扮する先生がそのラブレターを読む際「大事な証拠になりますので原文のまま読ませていただきます」と津軽弁で大真面目で読み出す場面では観客が大笑いし、とても面白いユーモア溢れる場面でした。恋しい、恋しい新子さま。と書くべき所を偽のラブレターを書いた女子生徒は「恋」という字を「変」と書き間違えていた場面でした。間違い文字で書かれたラブレターを「へん(変)しい、へん(変)しい新子さま」と生真面目な顔で読み上げる藤原の秘



めたユーモア溢れる様子が傑作でした。その後この作品はよつぼど日本人の琴線に触れたのか、本家の東宝はもとより何度もリメイクされています。日活ではあの吉永小百合が主演しましたがやっぱり「青い山脈」は原節子でしょう。小百合ラストには申し訳ありません。

▼主題歌も大ヒットしました。藤山一郎と奈良光枝とのデュエット、西條八十の詩、服部良一の作曲で今も若い人達に歌い継がれ愛唱されています。奈良光枝は早逝し残念でしたが藤山一郎はあるTV番組で「僕はこの歌に巡り会わなかったら私の戦後の生き方は無かった」とまで語っていました。日本人の誰もが口ずさむ、若く明るい歌声に雪崩は消える

花も咲く・・・” いい歌です。ところで主題歌がもう一つあったのをご存知ですか。

二葉あき子の「恋のアマリリス」です。同じ西條服部のコンビが作り、スクリーンに原節子扮する島崎先生が登場するとこの曲が静かにBGMで流れます。” ♪赤い花ならアマリリス、恋にやさしく咲いた日に、私の胸にも春風吹いて・・・花散る夜更けの小窓の灯り・・・♪” 原節子の雰囲気、清廉さ、穏やかな話し方などにピッタリのメロディです。ラストの方で先生と若者がサイクリング（こんな言葉、当時は無かった）で海辺に行きます。乗っていた自転車やたらピカピカ、このロケが有った昭和24年頃はまだ自転車は貴重品で都会ではやたらに盗難が有りました。我が家でも” 清水の舞台から” の思いで父が買いた求めた自転車が鎖と南京錠でがっちり施錠してあったのに盗まれました。今のマイカーより大事なものでした。映画のワンカットで「光自転車」という会社名とロゴがそれとなく映り「アッ！宣伝だ」と気が付きました。TVの無い時代の宣伝手段だったんですね。バレーボールの練習を屋外でやるシーンでは、これは三商の今のバレー部と同じだと納得。昭和26、7年頃の三商の体育館の床板はボコボコに穴が開いていたのでバレーやバスケットなどは校庭で練習、時には試合をしてました。

▼他愛のないストーリーとはいえ、この女性教師と同じ考えを持っていた人達が戦前、戦時中の規律、弾圧、古い因習や慣習などで自身の思いや胸の内の意思表示ができなかった暗い年月を経験し、それが終戦後の民主主義の導入で一気に噴き出す、原作者の石坂、監督の今井、音楽の西條や服部も同じ思い

の意気込みがあっただけでしょう。この映画の愛され方。凄さは以後5回も映画化されている事です。同じストーリーを5回も映画化されたのは世界の映画界を見渡しても例が無いでしょう。いつの世も必ず生ずる体制への不満、反発、批判など今は当たり前ですがそれを堂々と見え、討論する、それが民主主義の基本だと教えてもらいました。戦後の不安定な日本の社会に新しい風を吹き込ませた映画だったと鑑賞後65年を過ぎた今もそう思っています。

▼余談の中の余談です。この映画の脚本を書いた井出俊郎はその後のリメイク作品でもオリジナルとして使われていました。彼の息子の井出峻（タカシ）は東大野球部のエースとして神宮球場で活躍4勝しています。卒業後、プロ野球のドラゴンズからドラフト3位の指名を受け入団、投手としての活躍（1勝のみ）は無かったものの俊足巧打を買われ1軍にほぼ定着。彼の現役中唯一の本塁打は後楽園球場での巨人戦での代打ホームランでした。ちなみにあの長嶋茂雄の対ドラゴンズ戦の公式戦での引退セレモニーで電光掲示板に井出の名が表示されています。引退後チームは彼の英知を無駄にすることなく職員としてフロント入りさせ、チームの編成、育成、運営、渉外を担当させ2軍の監督まで勤め、最後は球団の代表にまで出世しています。東大からプロに入ったのは新治伸治（井出の3年先輩）で三原監督の大洋ホエールズ入り、新治は在学中は43敗、これは今も東京六大学リーグの記録です。公式戦でこの2人は投げあっていますが○●なし。井出は現在母校の新宿高校で野球部の外部コーチをしています。

私の見た映画「ベスト3」

「七人の侍」

▼誰が何と言おうと「これぞ日本映画最高の活劇映画だ」と賞賛できるNo.1の作品と信じています。昭和29年の黒澤明監督作品「七人の侍」。それまでの彼の作品（酔いどれ天使・野良犬。羅生門など）に見られた黒澤イズムなど無く、ただただストーリーの展開をテンポよく進め、3時間を超える上映時間を退屈させない（途中休憩時間あり）技は凄い。基本は監督ほか小国英雄と橋本忍による練りにねった脚本で撮影、音楽、美術（といっても高価な美術品は一つも登場しない）セットにあり全てが秀逸です。野武士、百姓、浪人などの衣裳は擦り切れてボロボロ、ボロ生地をわざわざ集めて仕立て直し、その上俳優たちに持ち帰らせてしばし日常的に家の周りを着まわらせるなど、近所の人から「どうとうあの方は奇人に…」と言われたと出演者の土屋嘉男が冗談っぽくTVで喋っていました。

木賃宿の床板の木目の光線の具合、決戦の時のカメラワーク、大雨の降らせ方など観る者の目を休ませず、大傑作として永遠に語り継がれる価値のあるエンターテインメント最高の活劇時代劇でした。ポスターや予告編では三船敏郎が主演者となっていましたが見終わつての思いは志村喬の「勘兵衛」が主役の座をとっていました。その他、「七郎治」の加東大介、宮口精二の「久蔵」、木村功の「勝四郎」、五郎兵衛の稲葉義男、飄々とした千秋実の「平八」など個性溢れる役と俳優でした。その中でも志村演じる「勘兵衛」はリーダーとしての采配と雨中での弓を射る風貌と鋭い眼差しは抜群。

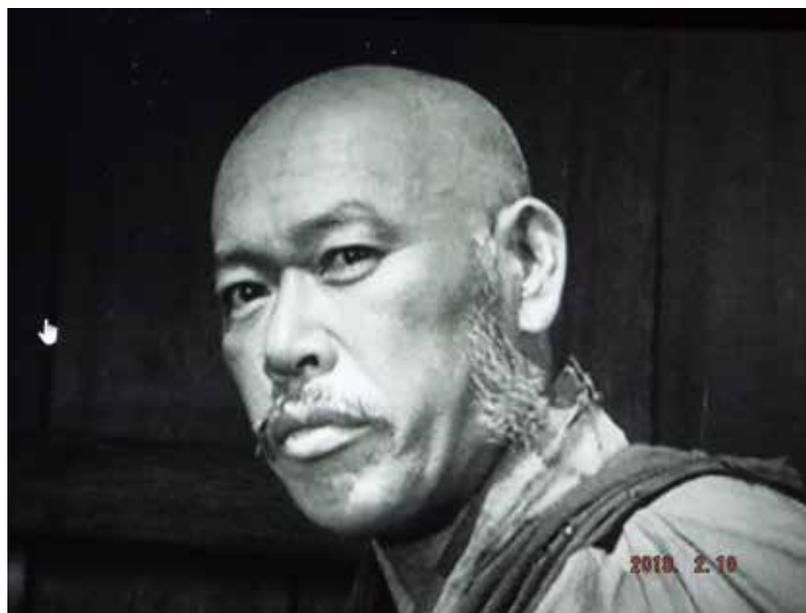
拾った系図で武士に成り済ましたもの見破られながらも百姓との共同の暮らしの中で、こよなく農民



を愛し自らの百姓だった貧しく苦しかったことに思いを重ね盗賊に立ち向かう三船扮する「菊千代」。他の五人の侍たちにも台詞回しや動きに個性が巧く演出され、宮口精二の「久蔵」はほとんど台詞が無く、街中での浪人との居合の真剣勝負場面と、夜間単身で野武士軍団へ切り込みに行き村に帰ってくる無表情な面立ち、大雨の決戦中敵弾に倒れる「久蔵」を見て泣き叫び狼狽する「勝四郎」の木村功。百姓

の苦しさ、貧しさ、哀れさ、悲しさなど部落の長老役の高堂国典や野武士から略奪した武器を持っていた左卜全、藤原釜足など脇役陣も見事でした。

▼野武士盗賊軍団に初夏には麦を、秋には米を毎年略奪される百姓に金子（きんす）は払えないが腹いっぱい米を食わずから助けてほしいとの約束事でストーリーが展開します。3時間の上映時間の中で凡そ三つの部分に展開、人探し、作戦、決戦となります。人探しは百姓三人が町に出て人探しをます。まず拉致した子を人質にして小屋に立て籠もった浪人（東野栄治郎）を一太刀で倒し子を救出した勘兵衛を。些細なことと言いがかりをつけられ真剣勝負となり一刀両断で相手を倒した「久蔵」。この二人



に百姓は感動しました。

その勘兵衛の立ち居振る舞いに心酔し、弟子志願を望んでいた「勝四郎」も雇われ、偽の系図を見破られながらも最後の七人目となる「菊千代」、かつて勘兵衛に従い、ともに合戦に敗れた槍遣いの「七郎治」。街中を合戦に敗れた浪人者が闊歩する中に若かった「仲代達也」が通行人として数秒間映っているという事でDVDをスローで観てみるとたしかに彼らしき人物がありました。この数秒間の為に3日間セットに通わされ「黒澤さんってすごい人だ」と思ったそうです。以後彼は黒澤作品の主役として「天国と地獄」や「用心棒」に主役で活躍、今の彼があります。ちなみに宇津井健も出ていたとか。

▼百姓と野武士の描き方も百姓は野武士に狙われ作物や女性を奪われる哀れな反面、まるつきり無抵抗だったのではなくかなりの野武士を殺戮していた残酷な一面ももっていました。正当防衛でもありますが殺戮した野武士から沢山の鎧、眉間除けの頭締(すしめ)などの武具、刀剣、弓矢、槍など武器を隠し持っていました。それを七人に提供し七人は驚きません。菊千代はその兜と胴着を、勘兵衛は弓矢を用い決戦に臨んでいました。大量の刀剣は野に数本立ておき決戦時に役立っていたようです。百姓は略奪はしたものの鋤、鍬や鎌しか持たない百姓に使い方など判る筈もなく菊千代や七郎治が伝授しています。村の中での人員配置、戦略など勘兵衛の指揮のもと詳細に徹底していく様子は観ている者をワクワクさせます。

菊千代が農耕馬を調教し手懐けようと裸馬に乗り木陰から馬が現れると菊千代が馬上におらず百姓や子供たちが大笑いするユーモラスなシーンを黒澤は忘

れていませんでした。野武士が立て籠もる小屋を夜討ちで火を放ち大火災を起こすシーンでは俳優数名があまりの火勢で顔面全体に「火ぶくれ」になり入院した人までいたそうです。戦国に敗れ盗賊や略奪に身をやつした落ち武者がいたのは事実ですが、この映画では同じ落ち武者ながら正義の為に貧困の弱者の為に戦い、報酬は二度のコメ飯(当時は一日二食)が戴けるだけの七人、四人の同志が戦死しました。七人と野武士軍団、昔日は志をもつて戦国の戦に臨んだもの同士、この両者を巧くスクリーンに載せて世の戦の無常、無念さを感じさせます。

▼黒澤はJ・フォードの「駅馬車」での製作意識意欲に憧れ、いつかは誰もが満足する活劇ものを



作ってみたいと兼ねてから思っていてこの映画の製作にあたりかなりJ・フォードを意識していたと感じます。最後の活劇場面のみならず、凄惨さはもとよりその夫々の動き、スピードは「駅馬車」に見るインディアンの猛攻撃、馬の転倒、疾走するステーションワゴン。J・ウエインがステーションワゴンの御者位置から後ろに向かって追いかけて来るインディアンをショットガンで撃つ場面は、まさに勘兵衛が豪雨の中で矢を放つシーンと重なります。

黒澤の好きだった西部劇での戦闘シーンは全てが晴れている好天が多く、せいぜい風が吹き枯草が丸まって転がる、そんな場面が多く黒澤はそれを逆手にとりて戦いのシーンでは大雨を降らせました。この大豪雨を撮影所のカメラを数台動員しての同時撮影法(マルチカメラ)が迫力を増し、後の「椿三十郎」でも三十郎が一気に二十数人を切り果たすシーンでも使われていました。

東宝は撮影用のカメラが不足になり他で製作中の撮影がストップになったとか、そんなエピソードまでオマケにつく有様だったようです。弓を射る勘兵衛の雄姿、やたら長い刀を振り回し奇声をあげて敵を威嚇する菊千代、適格な槍捌きの七郎治、一振り一殺の九兵衛、初めて人を斬り一瞬戸惑う勝四郎、全てがカメラが回っての一発勝負で、それがまた迫力、壮絶、凄惨を呼んでいました。菊千代と久蔵が刀ではなく、「種子島」で撃たれた壮絶な逝き方にも黒澤らしい時代の見方がありました。

黒澤は最後に、勘兵衛と共に生き残った七郎治と勝四郎に「今度も負け戦だったな、勝ったのはあの百姓どもだ」と田植えをする百姓に目をむけて言わせます。黒澤イズムの一つである「正義」を最後にきちんと表現していました。最後に一つ、音響があ

まりよくなかったと思います。とくに三船の台詞(彼はだいたいが怒鳴り声)聞き取りにくく、その後DVDや劇場で数回観ましたが同じでした。早坂文雄の音楽が良かっただけに残念です。

■弁当の友(弁友)

▼弁当の友などと言えばスーパーなど売っている冷凍食品かと思うでしょうが違います。昭和26年に三商に入社した時(1年2組担任は横山文夫先生)あてがわれた教室が校舎東の角にあった階段教室でした。理科の授業に使われた教室だろうと思いますが教室の片隅には水道が引いてあり(水はでなかった)黒板は上下式2段になっており初めてこんな黒板があるのを知りました。教壇から見ると生徒全員の顔が良く見え、生徒側からは実験の手元がよく見えていたはずで、教室の下は地下室で4、5段降りると濁水がたつぷりと溜まっています。2学期にはいつでも蚊が湧いていて教室にも入りこみまわりました。机は2名並びで数段、両サイドと間に2本の階段通路があり私の席は後ろから3段目でした。前の席のA君とはお喋りする機会も多く弁当の時間にA君の弁当がすっかり覗くことが出来、彼の弁当のオカズはかならずといていいほどふつくらとした「卵焼き」が入っていました。

▼私の知る限りの「卵焼き」はフライパンで焼き少し丸めたものしか知らなかった。「いつもすげーな」と思ったものです。A君も時折わたしの弁当をふりかえって覗き「高野はいつもいいオカズだね」などいっていました。実は我が家は食料品店をやっている納豆を始め、塩乾物、缶詰、漬物、野菜の煮物、そして佃煮など販売しており朝の6時頃には店を開

け夫々の家庭の朝のオカズ、弁当のオカズの買い物客で忙しく母親が弁当をつくってくれた記憶はほとんどなく全て自作自前の弁当でした。したがってオカズは店から好き勝手なものを多かれ少なかれ弁当箱にいれ今思えば贅沢で豪華だったのでしょうか。海苔弁なども底に一枚、中間に一枚、さらに弁当の上にも、さらにご飯にアミの佃煮をまぶし、ウズラ豆の甘露もたつぷりと添えていました。

▼ウズラ豆の甘露は当店でベストセラーだったので両親の目を盗んでたつぷりと弁当箱にいれていました。でこんな簡素な弁当がA君には美味そうに見えたのでしょうか。ある日カツオの角煮と貝のひも(赤貝)の佃煮のオカズの時、お互いに食べたいものだったのか半分ずつ交換しました。彼はよっぽど角煮の佃煮が旨かったらしく、私は彼のなんとも言えぬふつくらした卵焼きが食べたくオカズの交換が週に3回くらいあり、「鮭の塩焼きが喰いたいな」などリクエストしてきたりで私は注文に応えていましたが私はただただ彼の卵焼き一筋、ある日彼の母親が「お前が卵焼き好きなのはわかるけど滋養が偏るよ」と言ったとかで卵焼きとは暫くお別れ。でも小ぶりのシューマイが入っていたり小さく揚げた小エビのてんぷら?などの時もありでオカズの全取り換えをした事もありました。シューマイなどオカズに食べるなど、町中華で家族7人で一個ずつ食べた記憶しかない私にとってはラッキーでした。よく憶えているとおもわれますが勉強はさておき古い古い日記を紐解くとA君とのオカズ交換のことが時折書いてあり「アツそうだったなあ」と思い出す次第です。



▼今はワンコイン弁当が大はやり、どちらかと言えば肉系、特に鶏のから揚げなどバラエティーに富みオカズの多さに驚き、飽食の時代が慢性化しています。私達の時代からみれば豪華そのもの、昔の遠足は梅干しのおにぎり、小6の時の遠足で修学旅行と称して「江の島・鎌倉」に行きましたがふかし芋2本が私の弁当だったのが悲しいやら懐かしいやら、「衣食足りて礼節を知る」なんて言葉を当時は知ってはいませんが礼節があったかは兎も角、オカズの交換で友人が出来たなんていい時代でした。彼の本名は勿論知っていますが2、3年生時にはクラスも別れ、時折廊下ですれ違う程度、弁当の話など無く卒業就職したか、進学か自営か、それとも既にかゝりません。弁友だったのがA君の負担になるかなどの

思いを巡らしあえてA君としました。

■8月に思うこと

▼8月も半ばを過ぎ私達年齢からしてみればやはりこの月は「8月6日9日15日」となってしまうます。8月6日は広島、9日は長崎への新型爆弾(當時はそう言っていました)の投下、そして15日は「敗戦忌」、米国では9月2日が大戦終結記念日としていくようです。この日は戦艦ミズリー号艦上での締結調印式があった日でした。新型爆弾の恐ろしさは幾多の報道で知らされ、8月6日、9日には何処にいても黙祷を忘れたことはありません。それに8月は学童集団疎開や縁故での疎開に出発した月、私のいた国民学校は山形県上山温泉(現かみのやま温泉)へ500人近い集団疎開、3年生から6年生までの貸し切り夜行列車の大移動でした。私は疎開児対象のいちばん下の3年生でしたが上野駅での父兄の見送りは許されず、出発前の校庭での送別の式典が父兄との別れで、その後の東京大空襲(昭20年3月)で家族を失い最後の別れとなった友人も数多くいました。町の隣組、警防団、知人、親戚などが日の丸の小旗を振り私達はまるで戦地の赴く出征兵士のよ



うでした。病弱の生徒以外は学童疎開か縁故疎開かの二者択一でしたがそんな友たちよくと小松川の中土手にツクシンボを獲りに行ったり、砂町の田圃へザリガニ(私達はエビガニといっていました)釣りやタニシやセリ獲りなどに行ったりした事などはこの日この月が最後でした。当時よく一緒に遊び歩いた宇田川國一君は疎開は別々でしたが戦後避難先の小岩で再開、間借りの家もすぐ近所、小4から中3までクラスも一緒、奇遇な再会に手を取り合いました。今でもメール、電話のやり取りがあり8歳当時の友人がいる事にお互いに感謝しています。当時の友人はこの宇田川君だけとなりました。



▼8月15日疎開先で聞いた天皇の詔勅、9歳の身で何の事やらサッパリ判らず敗戦を知ったのはその数時間後か翌日でした。「これで家族の処に帰れる」が頭に走ったのは確かです。同年11月に避難先の小岩に帰りました。6畳と3畳の二間に家族7人で起伏していましたが両親、兄妹と同じ屋根の下で暮らす戦争のない毎日の安心感に食糧難ではあったが幸せを感じました。敗戦以降マッカーサーが唱えた日本の非軍事化、民主化政策、婦人参政権など矢継ぎ早に指令を出し大きく国柄をかえました。先ず天皇は国威ではなく單なる象徴、主権は国民、財閥は解体、表現、結社、言論は自由、そして私が思うに「農地解放」と「教育改革」はその後の日本の在り方に大きな変革をもたらしたと思っています。

▼6・3制の義務教育化などは最たるもので私達年齢層は「新制中学生」と呼ばれていました。三商最後の旧制中学5年生だった兄はこの改革で高校3年生になれたものを家庭の経済的事情で在校進学せず、学校の幹旋で新光レーヨン(現三菱マテリアル)に入社しました。新制中学の授業では歴史の授業は皆無となり新たにホームルーム、社会科、家庭科などが加えられましたが教材となる資料に乏しく音楽の時間では「リンゴの唄」を何度も唄っていたこともありました。ある友人が田端義夫の「帰り船」を皆で唄いたいと真面目な真剣な顔つきで先生に申し出ましたが勿論却下、この唄は復員船に乗り帰国は出来るものの、敗戦による虚しさ、悔しさ、帰国で来るうれしさ、国敗れて山河ありの複雑な思いを船上に飛ぶカモメに語りかける哀愁を込めたメロデーと歌詞です。彼の父親は既にビルマで戦死しており仲間は皆そのことは知っていましたが、今思うと悲

しく思い出す彼の顔、夏休み中の登校日にあったあの時の8月です。「農地改革」で有難みを受けた農家は食料不足で買出しに来る人々が増え、消費者は金がないので殆どが「物々交換」ですませ、農家は一時「農地大臣」とまでいわれていました。そして今、農業人口もグンと減り田畑が税金対策の「生産緑地」となっているものの草ボーボーの休耕田、自家消費のみの田畑の姿をよく見かけます。教育改革だけは周り径もあつたけれど今以て維持され、現在の文化、教育、企業の発展などに大きく寄与しているのは事実だと思っています。

▼在学2年生の時の8月、気の合う友人と連れ立って葉山の森戸海岸に行き、3年生になつてもそのメンバーでよく行つてました。当時はまだ今の様な高級リゾート地ではなく混雑もなく夕日の沈む美しさを眺めてから帰宅しました。錦糸町駅前の「蕎麦屋」で皆で盛り蕎麦を食へ解散、盛り蕎麦が20円の時代でした。卒業後も数年つづいており各勤務先の保養地の温泉巡りも何年か続けていました。石塚芳男君、鹿野宗治君、西村義雄君、小枝昇邦君、8月になると思ひ出す懐かしいメンバーです。

▼雑句・青天に あの日八月 さまざまに

写真説明

■19ページ海水浴、鹿野君・西村君・小枝君後列は石塚君

「リンゴの唄」SP盤レコード（実家にかつて保存してあったもの）

寄稿・エッセイ

小さなドライブ紀行① 鈴木貫太郎記念館

第27期 江角 喜一



すこし前にNHKテレビで、戦争を終わらせた総理大臣として放映されたのが鈴木貫太郎でした。そんな総理がいたのかと感心したが、調べて見ると我が家より車で1時間足らずのところにあるのではな

いか。

8月13日(日)午前9時頃、越谷自宅車庫より愛車を発進。国道4号バイパス経由、春日部より江戸川を渡ればほどなく関宿に入る。そこからさらに境方面に行くと、数分で鈴木貫太郎記念館が現れた。記念館の玄関前には、「為萬世開太平」と書かれた巨大な看板が掲げられていた。戦後鈴木貫太郎翁は、よくこの言葉を揮毫したと伝えられる。

史料を閲覧すると、鈴木貫太郎は関宿藩主の息子で、慶応3年(1867)生まれ。若き日は海軍兵学校に入り、後に日清・日露戦争をえて海軍大將まで昇進。しかし、昭和4年(1929)に侍従長となり昭和天皇に長く仕える。昭和11年(1936)の二・二六事件では、侍従長官邸を襲われ銃弾4発を受けたが、奇跡的に一命をとりとめる。

さて、昭和20年(1945)3月10日の東京大空襲を受け、4月に小磯内閣辞職により、鈴木貫太郎が内閣を引き継ぐ。8月に二度の御前会議によりポツダム宣言受諾が決まるが、だれも終戦を言いだせる者もなかったようであるが、侍従長の経験で昭和天皇に終戦を言いやすかったのではあるまいか。それにしても広島・長崎の原爆投下前に決められなかったのが返す返すも残念なことであった。

私事では、東京大空襲の前日、すなわち3月9日に母と伯母とともに僕と弟は浅草から父の郷里行田に避難疎開したと聞く。翌日の東京大空襲では、遠く行田からも東京方面の空が赤々と燃えているのが見えたと母は語っていた。まさに間一髪我が家族も生きのびる幸運を得た訳である。

ポツダム宣言受諾の調印は、東京湾上に浮かべられた米軍艦艇上で行われたのだが、当時の重光外相が

戦争で片足を失った姿で杖をつきながら座席に着いた様子を米従軍記者が新聞で書いていた。この重光外相の記念館が奥湯河原にあり、湯河原温泉旅行の際に訪れたことがある。記念館は外相のお孫さんが管理していた。

鈴木貫太郎内閣はポツダム宣言受諾後直ちに総辞職。その後鈴木翁は郷里関宿に隠居するも昭和23年(1948)自邸にて逝去、享年81歳であった。記念館は地元の有志や自治体、元首相吉田茂をはじめとする政財界の協力を得て開館したとある。

帰路、関宿城博物館を見学す。なかなか立派な博物館で、江戸時代から江戸川利根川の水難で苦しめられ、防災の土木工事が何回も施行され発達発展した土地柄を確認した。台風接近のため、午前11時半頃激しい小雨ふるなか愛車のハンドルを切って越谷に向かった。



※編集部注、令和元年の台風19号の影響及び耐震診断の結果、現在は臨時休館しております。

小さなドライブ紀行②
関根名人記念館

関宿にはいまひとつ有名な記念館がある。すなわち関根名人記念館である。将棋好きにとっては聖地と言えよう。実は過去2回訪れたことがあり、永く



女流名人戦第3局の対局場として使われたのである。当時は、矢内理絵子女流名人対挑戦者里見香奈の対局で、大盤解説会に見入っていたものでした。さて、11月30日(月)午後1時頃、幸手市にある顧問先に行く前に時間潰しに訪問したのである。春日部より宝珠花橋を渡れば野田に入るが、県道17号を松戸方面に右折すれば1分ほどで「いいのホール」に着く。ここは旧関宿市役所だが、野田市と合併後は文化振興施設となっている。ただ、1階だけは関宿支所として役所業務を担っている。そしてこの5階が関根名人記念館なのである。

展示室に入り記帳ノートに記名すると、面前に盤を挟んで関根金次郎と阪田三吉の対局姿、そして立



会人として小野五平12世名人が見守っている拡大写真が迫っていた。関根金次郎は慶応4年(1868)に関宿に生まれ、阪田三吉は明治3年(1870)の大阪府堺市に生まれ、関根が2歳ほど年上であった。関根金次郎は東京の伊藤宗印(後の11世名人)に入門し、16歳の時二段を得る。伊藤宗印の勧めで将棋修行のため、関東・東北・関西・九州・四国を巡り、各地の棋客を訪ねる旅に出る。23歳の頃東京に戻り伊藤宗印より四段を免許される。宿命のライバル阪田三吉との初手合いは、明治27年(1894)堺大浜において行われた。以後5連戦、7連戦などで通算25局ほど対戦している。大正7年(1918)に東京で3連戦、これが関根対阪田の最後の対局となる。大正10年(1921)関根金次郎54歳、13世名人に就位。昭和13年(1938)関根名人、13世名人を退位し、実力制による第一期名人に弟子の木村義雄が就く。昭和21年(1946)関根金次郎は生家の東宝珠花にて77歳で死去。同年阪田三吉も大阪府東住吉にて76歳で死去。

平成16年(2004)4月1日に、ここに関根名人記念館開館。開館に際しては原田泰夫九段がかなり尽力されたようである。展示室の隣に一般対局室が2部屋あり、2組の高齢者が対局していた。少し離れたところに小ホールがあり、ここで女流名人戦が席上対局されたのであるが、ほとんど満席のため我々は先の一般対局室の大盤解説会で指し手の成り行き見守っていた。なお、廊下には100名近い棋士の色紙が掲げられ、今を時めく藤井聡太君の色紙が「初心竜王藤井聡太」とあった。

なお、折しも令和6年2月4日(日)に西山朋佳女流名人対挑戦者里見香奈四冠の対局が当関根名人記念館で組まれた由。もちろん行くしかないであろう。

三商祭の誕生と思い出

—三菱電機㈱三商同窓会「東雲会」のご縁—

第29期 仲田 元昭

「はじめに」

三商生の誰もが最も思い出に残る行事である三商祭、文化祭が三商祭に何時から名称が変わったか、又当初の三商祭の内容を記憶している同窓生も少なくなつたことでしょうか。

令和六年三月三菱電機㈱の社内三商同窓会「東雲会」会員との一年振りのメール情報交換の中で第二十五期の田中国秀様より「三商祭の名称は今でも同じでしょうか?」とのご連絡が発端で、三商祭の誕生の経緯が判明しました。

情報提供者は、東雲会の第二十五期田中国秀様(以下田中先輩)と第二十七期萩尾明様(以下萩尾先輩)でした。

両先輩との、メール情報交換で当時の内容が分かってきましたので、同窓生諸兄姉にも三商祭を思い出して頂く機会になればと思います、当初の三商祭や東雲会の様子等をご紹介します。

一、昭和三十二年(一九五七)三商祭(第一回)

(一) 誕生の経緯

田中先輩からの寄稿

▼三商祭誕生

「第二十五期の生徒は、昭和三十二年夏休みから就職活動が始まり、九月から新学期で生徒会役員も変わりました。従来は学芸委員長が文化祭実行委員長を務めていましたが、会計委員長であった私が是非やりたいと自薦でやらせて貰いました。

名称も当時の生徒会長 栗橋 伸次郎君(三年八組)とも相談し、従来の「文化祭」の行事内容に検討を加え「三商祭」に名称を変えました。

▼文化祭から三商祭に名称を変えた背景

当時他校の生徒会との横のつながりも出来てきて普通高校の方とお話する機会もあり、その中で記憶に残った一つが日比谷高校の文化祭が「星稜祭」と称されている事でした。

文化祭実行委員会を立ち上げ基本方針について討論する際、在校生全員が参加して楽しめる文化祭を目指そう、その為には自分のものだと自覚して貰うには名称を変えるのも一つの方法ではないかと日比谷高校の例を挙げて提案したところ賛意を得て、最終的にシンプル イズ ベストに分かり易く「三商祭」としました。

それから実行委員会を中心に部活、生徒全員が遅くまで全員参加の第一回三商祭の準備が始まりました。」

と言うわけで第一回三商祭は昭和三十二年誕生、命名者は三商祭実行委員長の田中先輩で、東雲会で六十有余年のお付き合いですが初めて知り驚いた次第です。

(二) プログラムと生徒会名簿

田中先輩からの寄稿

「数年前断捨離で書類を整理していたら、昭和三十二年一学期の生徒会役員名簿や高校三年の三商祭のプログラム、三商祭の実施内容を三商新聞に投稿した私の第一回三商祭を終えてという原稿などが出て来ました。

今回、寄稿記事執筆の貴重な資料として仲田さんに情報提供しようと探した所、どうしても見つかり



昭和32年撮影校舎
写真提供：田中先輩

ませんでした。しかし、三商祭誕生の記念すべき年、昭和三十二年一学期生徒会役員名簿は、見つかりましたのでご紹介します。

生徒会長：栗橋 伸次郎(三年八組)、副会長：友松利昭(三年八組)、副会長：大和久一男(二年二組)、総務委員長：當麻隆(三年三組)、副：伊藤 幸伸(二年四組)、志村 泰男(二年四組)、厚生委員長：中島 弘敏(三年五組)、副：佐々木 征一郎(三年四

組)、矢沢巴三(二年六組)、会計委員長:田中国秀(三年八組)、副:吉本瞬(二年八組)、大塚英紀(二年七組)、学芸委員長:登坂 隆美(三年七組)、副:吉沢正雄(二年四組)、体育委員長:永井優吉(三年六組)、副:青山晴雄(三年六組)、図書役員:丸山晃宏(三年七組)、栗原利夫(二年七組)、深瀬剛男(二年七組)、書記長:星野貞信(三年七組)、書記:伊藤友子(三年四組)、亀田ヨシ子(三年四組)、長尾久美子(二年三組)、仲田元彦(二年一組)を含め総勢二十四名でした。」

私としても、三商祭と名称を変えた第一回目の重要なプログラムの紛失、何とか探し当てたいと同窓生の皆様に呼びかけを、事務局にお願いした次第です。

(三) 実施内容

田中先輩より三商祭の思い出の寄稿

▼新名称 三商祭の目玉

「確か第一回三商祭は、十月三十一日の前夜祭(キャンプファイヤーとフォークダンス)を含めて六日間で三商祭として最長の実施と記憶しています。

第一回三商祭の目玉にしようと思ひ「明治大学マンドリンクラブの演奏」と「芥川賞受賞作家の講演会」を行いました。作家の名前が正確に思ひ出せないが、昭和三十二年上期受賞作家の恐らくは菊村到先生だと思ひます。

▼三商祭の基本方針 在校生全員参加の行事に

全員参加を目指し出来ることは何か議論を重ねた結果、まず生徒会に理解の深かった体育部各部長に依頼して招待試合を増やしてもらうようお願いしま

した。特に、野球部の永井部長、軟式庭球部の服部部長、レスリング部の青山部長の三人は話の分かる部長ばかりでした。体育部も参加の楽しみが増えたことでしょう。

総務委員会に対しては、クラスとしての参加を増やすよう働きかけて貰いました。クラスの参加は、テーマを決めその研究結果を展示するのが一般的でしたが、従来家庭部がカレライスなどのメニューでやっていた模擬店を、クラスで「館蜜やとろてん」等の簡単なメニューの模擬店出展などの拡大を依頼しました。男子生徒はきつと苦労された事でしょう。

▼あと忘れられない広告取りの活動強化

プログラムは、掲載した広告料で作製してしましたから、三商祭の内容が増えれば紹介ページも増えプログラム製作費も増加するため、広告取りには力を入れました。

まず前年のプログラムの協賛出稿頂いている企業様にアポを取り、会社を訪問して三商祭への改称をご説明して協賛をお願いしました。嬉しかったのは殆どの企業様にご理解頂けた事です。

特にオーナー企業様が三商先輩の時は、新しい企業様をご紹介して下さり、先輩に感謝の一語でした。若干協道に逸れますが、先輩にはコーヒーをご馳走して頂きましたが、当時高校生が喫茶店に入る慣習は有りませんでしたので、苦労しました。自分がやって楽しかったのは、広告取りで大人の世界を垣間見た感じでした。

生徒会顧問は岩永先生、中川先生で生徒会役員の見解を良く聴いて頂き、いろいろ討論した良き思い出があります。準備・実行等々苦労はあったものの、新企画も取り入れ、一年生から三年生まで全員参加

の充実した第一回三商祭になったと自負しております。」

と言うわけで昭和三十二年(第一回)三商祭も当時の三商力を結集し、将来を見据え充実した立派な三商祭であったと確信しております。

田中先輩は、今回の寄稿に際し同期の元生徒会役員や同期会のクラス幹事で現在でも年賀状のやり取りをして居る数名の方にもお電話し、当時の内容等情報収集にご尽力頂きましたことをお伝えします。

二、昭和三十三年(一九五八)三商祭(第二回)

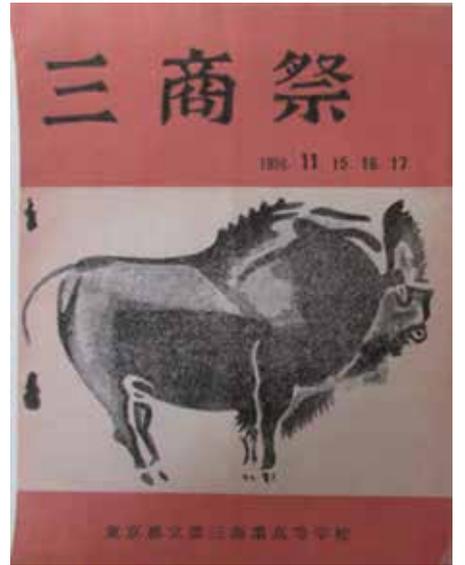
(一) プログラムの発見

萩尾先輩より「昭和三十三年三商祭(第二回)のプログラムが見つかった」と連絡があり、執筆中の私としては奇跡で大変嬉しく思いました。田中先輩からも「サヨナラ満塁ホームランですね」とメールを頂きました。

萩尾先輩からの寄稿

「何で昭和三十三年版が手元に有ったかと申しますと、このプログラムの表紙絵は小生が描いたものです。拙作お恥ずかしいところですが、これはアルタミラ洞窟の動物絵の模写です。詳細は殆ど覚えていませんが、当時実行委員のどなたかから美術部に依頼されて描いたものと思われます。私が途切れ途切れに進めている断捨離の整理袋の、死んだら棄てる袋に入っていました。」

このプログラム表紙の解説で、貴重なプログラムの一部を三商同窓会会報に掲載でき、日の目を見ることが出来ました。



昭和33年三商祭プログラム
表紙絵：萩尾 明先輩

プログラムは、同窓会にも母校にも保存されていない可能性が高いとのこと、三商生の貴重な教育関連参考資料として同窓会HPのファイル名「同窓会・学校情報の三商アーカイブ」に掲載したいと同窓会事務局より連絡があり、喜んでご提供することになりました。

(二) プログラムの内容

プログラムの最初に、石田壮吉校長の「三商祭を迎えて」のご挨拶の三行目に

「聞くところによると、一昨年までは文化祭として行われてきた行事の内容に検討を加え、その名も三商祭と改めて昨年から新しく発足したとのことであります。」

とのお言葉があり、昭和三十二年（一九五七）開催の“三商祭が第一回目の誕生”であることが証明されました。

また、昭和三十三年（一九五八）第二回三商祭実行委員長は、第二十六期三年生の近藤春實様で（プ

ログラム二ページ目、添付）、萩尾先輩より「東雲会会員で第三十期近藤若三郎さん（以下近藤さん）の兄上ではないか？」とご連絡を頂き、私も過去に近藤さんより兄も三商と言われていたようでしたので、同窓会HPの第二十六期卒業記念アルバムを全て確認したところ兄上と思われる近藤さんは一名のみでした。
二年続けて東雲会とご縁のある先輩ではないか、念のため近藤さんに確認したところ、「近藤春實」は私の兄です（二〇一七年一月に亡くなりました。）とご連絡があり、第一回、第二回の三商祭実行委員長が共に東雲会の田中先輩と近藤さんの兄上、故近

その名も「三商祭」と改めて昨年から新しく発足



昭和三十三年（第二回）三商祭プログラム
1P 石田校長挨拶と 2P 近藤三商祭実行委員長挨拶

藤春實様で東雲会を通じ不思議な繋がりのご縁となり、奇遇に驚いた次第です。

ここに、細かいですが昭和三十三年三商祭プログラムの内容をご紹介しますので、当時を思い出して頂ければ幸いです。

・「前夜祭」

学生男女の若さと情熱 七色の夢を呼ぶ合唱と踊り、キャンプファイヤーとフォークダンス

・「講演」

①「日本をめぐる国際情勢について」講師：東京大 学講師 末松満氏

②「アナウンサーに生きる」講師：ラジオ東京アナウンサー 竹脇昌作氏

・「私の主張」

次代をになう我々には大きな希望がある！

次代をになう我々はしっかり自分の意見を主張し、

また我々の仲間の意見をも聞くように努めようではないか。

日常の生活、毎日の学校生活から生まれたみんなの考え、その意見発表のチャンスを三商祭につくり、互いに意見を述べ、考えること、これがこの大会の目的です。

また三商生徒会活動も十周年を迎え、転換期にあるといわれる私達は心を新たに生徒会活動について考える必要があるのではないだろうか。

・「吹奏楽」

消防庁音楽隊：行進曲、小品二曲、幻想曲、接続曲、円舞曲

・「演劇(七)」(注:カギカッコ内数字は筆者加筆)
 一年一組:あまのじゃく、三年二組:三年寝太郎、
 三年八組:世界珍道中、一年九組:なりわいの種、
 演劇部:太郎吉と次郎太、放送劇:放送部野菊の墓、
 模擬裁判:社会部猿蟹合戦

・「音楽(二)」
 合唱(七曲他):コーラス部、ブラスバンド(九曲):
 吹奏楽部、

・「合唱コンクール(十)」
 一年二組、三組、五組、七組、八組、二年四組、三
 年二組、四組、七組、演劇部、

・「公開放送(一)六のセクション:放送部、
 ・「展示(教室使用数三十)」

写真展:写真部、美術展:美術部、三商生気質:三
 年五組、数学パズル:三年四組、月とロケット:
 三年八組、古代エジプト展:史学部、HIFI・
 FM・ステレオと特設スタジオ:放送部、休憩室:
 一年一組、一年五組、都民の足:地理部、イチロク
 展:一年六組、室内装飾:家庭部、平家物語展:文
 学部、タイプ展:タイプ部、特別教室:団体参加以
 外の全校生徒・先生個人参加の作品展示、映画展:
 映画研究部、One-sided Love for
 Six Years:三年七組、東京諸々:新聞部、
 古典の研究:書道部、速記展:速記部、簿記展:簿
 記研究部、生徒会展示:生徒会、生物展:生物部、
 宇宙への限りなき前進:三年六組、

・「座談会」:他校生を囲んで

・「SPORTS(十三試合)」
 剣道部:対先生、對他校生、卓球部:対日大一高、
 対向島商業高校、野球部:対三年、対OB、一年
 対二年・バトミントン部、レスリング部、龍球部:
 対OB、柔道部:対芝商業高校、排球部(二試合):

対戸山高校

・「模擬店」三商の味!

カレーライス、ハムライス:各四十円、あんみつ・
 するこ:各三十円、くずもち:二十円、ところてん:
 十五円、

(当時の初任給約一万円弱、現在と比べ値ごろ感ほ
 如何でしょうか?)

以上の昭和三十三年(第二回)三商祭のプログラ
 ムを六十七年目にして新鮮な気持ちで再度拜見し、
 当時の素晴らしい「三商祭」が目の前に浮かんでく
 るような、立派なプログラムを作成していたものだ
 と、改めて三商力を強く感じました。

中でも体育部の招待試合も増え、体育部の皆様も
 三商祭の舞台で楽しいご活躍の場を持たれたこと
 でしょう。これも第一回三商祭実行委員会、各委員の
 斬新な企画力があつたこと、次年度の三商祭の発
 展に寄与することとなったと思います。

この三商祭の企画力・実行力が、後の企業経営や
 会社生活の基礎力になった教育の大きな柱の一つで
 あつたことを、感じ取ることが出来ました。

まさに三商生、先生、OB、行政、他校、父兄を
 巻き込んだ、第一回三商祭の基本方針「全員参加の
 三商祭」、且つ後輩にも活躍の場を提供する先輩の
 心配りを感じ取れる、三商の総力を結集した最大の
 行事であつたことが、このプログラムから読み取る
 ことが出来ました。

三商バンザイ
 \ (^o^)/
 \ (^o^)/

(三) 実施内容

昭和三十三年の三商祭は、十一月十四日が前夜祭
 で、十五日から十七日まで三日間開催されました。

萩尾先輩から美術部の思い出の寄稿(当時の記憶、
 記録を精一杯探し分ける範囲でとのこと)

「当時の美術部員は、十七人くらい(一年生八人、
 二年生三人、三年生六人)であつたように記憶して
 いる。

この年の三商祭には、部員の共同制作による「壁
 画」と「彫刻」を出展した。いずれを思い出しても、
 六十六年前の三商時代のパワーの大きさに、今更な
 がら自分でも驚くばかり。

▼教室の壁面をベニヤ板で覆った「壁画」を制作・
 展示

題名を正確に覚えていないが、部員で創造した若
 者のキャラクターを多数描き込んだ「青春群像」が
 内容だつた。延べ十五坪、ベニヤ板三十枚を使用し
 た大作。

部員総がかりで時間をかけて起案し、「原画描き込
 みから完成まで四日間」で制作した。一、二年生が
 中心だつたが、帰宅が夜の十時、十一時になった。

美術部のOBも含めて、参観者からご高評をいた
 だいたこと、加えて国語の某先生から「四日間によ
 くやったね、これだけ出来れば上等だ」の言葉をい
 たいただいたのが今でも心に残る。

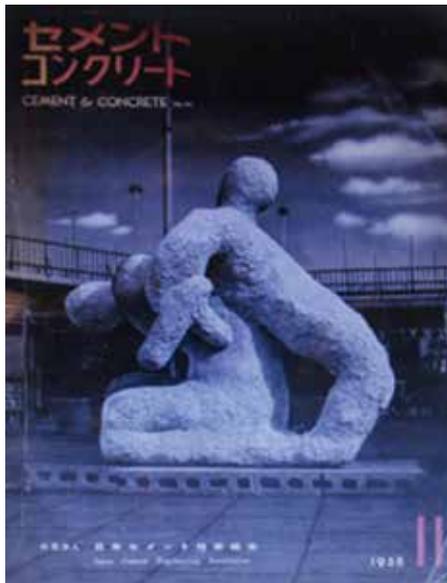
▼夏休みに制作の白色セメント彫刻「ちから」を校
 庭に展示

部員六名による共同制作(一年生三人、二年生三
 人)。小野田セメントが協賛の第二回「白色セメン
 ト造形作品展」(昭和三十三年九月二十一日〜十月
 三十一日)に出品、当時の「後楽園ゆうえんち」が
 会場で展示された。小野田セメントが「白色セメン
 トを無料」で提供してくれた。

夏休みに、起案、作成手順の決定、中の芯棒(材
 木など)作り、セメント捏ね、造形を行った。彫刻

は等身大より大きいもので、相当な重量であった。従って、会場への搬入、搬出には美術部OBの方にお願いし、会社の小型トラックで運んでいただいた。丁度「作品展」の会期を終えて学校に戻ったこの作品を、三商祭で屋外展示した。

この作品が後楽園で展示されていた時の写真が（社団法人）日本セメント技術協会の会報誌一九五八年十一月号の表紙に掲載された。望外のことで、とても驚き、嬉しかった。」



三商美術部6名の共同作品 彫刻「ちから」
(社団法人)日本セメント技術協会の会報誌
1958年11月号の表紙に掲載(後楽園ゆうえんちに展示中の写真)

美術にご造詣の深い三商生は多く、同窓会支援の第二回三希会（三人展）が令和五年六月に開催されており、萩尾先輩も個展を数年前に盛大に開催されました。

三、昭和三十四年（一九五九）三商祭（第三回）

昭和三十四年の三商祭は、十一月二日から四日まで開催されました。

私が入学した一年生（一組担任：杉原勇太郎先生）の時、全てが新鮮で展示、発表、演劇、ブラスバンド演奏、キャンプファイヤーとフォークダンス

ス等々興味津々でした。しかし三年生の展示、発表の部屋だけは見学しづらかった記憶があります。やはり立派なお兄様、お姉様との感じが強かったようです。

萩尾先輩より「令和六年四月二十五日に第二十七期の有志の会合（ランチと一杯会）があり、たまたま大木勇二君が「三商祭一九五九」の写真を持ち合わせておりましたので、四枚頂戴してきました。その後更に三枚郵送されてきました。」と写真をスキャンしメールで送信がありました。執筆中でありまさに奇遇で大変嬉しく大木先輩に心より感謝すると共に、掲載させて頂くことにしました。

写真提供：第27期 大木勇二先輩（7枚共）



昭和34年三商祭（第3回）の立派な看板 校門の上



書道部；力作を見る女子生徒



昭和34年（1959）三商祭プログラム表紙

三商生気質の研究か、
種々分析・比較しているデータを熱心に見学



美術部：彫刻、造形作品



手前で見学している生徒は私と同じ1年生

理科の先生にご説明の女子生徒



昭和35年三商祭校門看板
(校舎改修の足場が当時は丸太)
写真提供：第29期卒業アルバム

四、昭和三十五年（一九六〇）三商祭（第四回）
昭和三十五年の三商祭は、十月一日から三日まで三日間開催されました。
私は、二年生（八組男子クラス担任・川杉敏夫先生）になり三商生活にも慣れ、自ら参加し充実した三商祭を過ごすことが出来ました。社会研究部の先輩より三商祭で演じる模擬裁判の役が足りないとのことで誘われ、法律に興味がありましたので入部しました。
早速、模擬裁判の準備に取り掛かり先輩の皆さんと種々打ち合わせし、事件名は定かではありませんが「かちかち山」を殺人事件に仕立てシナリオ作りを通じ、刑法や裁判の仕組みを勉強し法律の重要性を学びました。

私は、刑事役を演じ初めて講堂で多くの三商生の前で演じることで、大勢の前で話すことの自信を付けることが出来、その後の会社業務展開の中で、また特に海外から輸入する契約条件交渉等に良い経験をしたと思っております。

五、昭和三十六年（一九六一）三商祭（第五回）

▼昭和三十六年の三商祭は初めて冬に開催

例年三商祭は秋に行われていましたが、今年度は校舎の改修を行っているため、冬場の昭和三十七年二月三日から五日まで三日間の開催となりました。

全員就職も決まり、私にとって最後の三商祭は、三年一組（担任：杉原 勇太郎先生）として喫茶店を開店、後輩の皆さんと気軽にコミュニケーションできる場を提供し、種々の話題で皆さんとお話しが出来たように記憶しています。

クラスの森平 實君から「喫茶店名は『スリー・ワン』、クラスの女生徒はウエスト・サイド・ストーリー風の洒落たワンピースとエプロン姿でご対応、普段制服姿しか拝見していなかったので、大変新鮮味を感じたことを思い出しました。」と思い出をご連絡頂きました。

▼三年一組模擬店と田中先輩との不思議なご縁

この喫茶店「スリー・ワン」を企画実施してみ、第一回三商祭実行委員長 田中先輩の「基本方針：全員参加の三商祭」を目指して、従来家庭部がやっていた模擬店を、クラスにも波及させようとした三商祭の基本方針の斬新さが、六十三年目にして分かります。

田中先輩からも「仲田さんともっと早く深いお付

き合いが出来ていたら」とのお言葉を賜り、この二週間ほどのメール交換での交流の深さを感じております。

今回の会報への寄稿文原稿作成のご縁で、五月一日に田中先輩よりお誘いがあり二名のみで初めてお会いし、原稿の打合せや三商祭の思い出を語りあい昔話に花が咲き、充実した楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

これも母校三商、三商同窓会、三菱電機(株)東雲会のご縁と感謝しております。

▼第三十期近藤さんから、当時の記録より放送部の思い出の寄稿

「三商祭（昭和三十七年二月三〜五日）三商祭が開催され、放送部も出展をした。文化祭は例年秋に行われていたのだが、今年度は校舎の改修を行っているため冬場の開催となった。

放送部の活動の概要展示と放送劇上演、視聴覚室でのレコードコンサートを行った。概要展示では、放送の歴史紹介とともに教室に間仕切りを立て放送の仕組みを図や写真などで紹介するとともに特設スタジオを設けて音楽番組などを公開した。放送劇は四日に田中澄江原作「京都」を上演、HIFIコンサートは視聴覚室でクラシック音楽の鑑賞会を開いた。」

六、昭和三十七年（一九六二）三商祭（第六回）

▼近藤さんからの寄稿

「三商祭（昭和三十七年十一月二十三〜二十五日）高校生活の最後となる文化祭が開催され、放送部の活動成果を披露した。放送劇「丘の上」を上演す

るとともに、視聴覚室でステレオHIFIコンサートを開催、「スタジオから家庭まで」と題した展示も行った。

校舎の改築で昨年度の文化祭は今年の二月に開催されたが、文化祭はやはり秋のほうが雰囲気が出る。文化祭準備で夜遅くまで学校に残り、スタジオを作ったり、番組の制作・リハーサルをしたり、模造紙に説明を書いて貼ったりと、展示会場が出来上がっていくのは楽しかった。皆と一つのことを力を合わせて進めていく作業はかけがえのない、連帯感を築き上げていく時間だった。」

▼放送部との関わり

私は、放送部の活動も活発であったと記憶しております。第二十九期同期の故林 美雄君はTBSの元アナウンサーで、三十有余年前に現役でご多忙にも拘らず同期会の司会を担当して頂き、素晴らしい司会であったことを思い出しました。

近藤さんもこの寄稿文に放送部の三商祭での活動状況を二年間分投稿して下さいますし、また三菱電機でも、放送部と関係のある広報部に所属し、広報活動で大変ご活躍されました。

私事で恐縮ですが、平成七年六月八日、日米半導体貿易摩擦問題で通商産業省（現経済産業省）指導の、日本側メンバーに参加していた関係で、広報部近藤さんよりNHKの緊急インタビューの依頼があり、応諾したところ二時間後に収録があり、当日二十一時のNHKTV衛星第一放送「ビジネスライク」のニュースで、日本側の取り組み方が映像と共に世界に放映されました。

これも三商同窓会・東雲会があつてこそで、深く感謝しております。

▼第三十一期馬場嘉夫さんから鉄道同好会創設の思い出の寄稿

「私が二年生の時に、たまたま周辺に鉄道好きがおり、特に同好会会長をお願いした田島正義さんが私以上に大好き人間でした。当時クラス担任の竹田一郎先生（ヒテカン）に顧問をお願いしたら快諾して頂き設立出来ました。当時は、少人数での同好会の設立が大流行でした。

その後、三商祭に参加することになり、準備作業に取り掛かるが、悪戦苦闘して最後は交通博物館などを見学し、なんとか完成した思い出が残っています。でも、我々が卒業したら解散!!、しかし、同好会メンバーとは今でも交流を続けております。」

三商生は、好き者同士の集まりとはいえ、時代を先取りした（新幹線開通等鉄道に興味か？）企画・実行力もあつたように思います。

七、三商祭は更なる発展へ

三商祭は回を重ねるごとに、新たな企画と時代を先取りした内容の充実により運動会と並び三商青春時代の思い出の行事として、発展を続けています。令和六年三月のメルマガに第四十七期評議員・三商教諭の加藤 美喜雄先生が「三商祭のフィナーレを飾る応援団の演舞と応援歌の大合唱は、青春のページとして今も記憶に残っています。」と投稿をされております。

また、母校三商のHPを拝見しますと、昨年令和五年九月二十九日から三十日に三商祭が開催された、様子が公開されていました。

昨年の三商祭のポスターは、美術部二年生の女子生徒が描いたとのこと、昭和三十三年の三商祭のプ

ログラムの表紙絵も同じ美術部二年生の萩尾先輩の絵で、偶然でしょうか。いやしっかりと伝統が引き継がれておりました。

六十六年前昭和三十三年のプログラム表紙絵のアルタミラ洞窟の動物絵の模写と、令和五年のポスターの斬新な未来へはばたく現代風の絵と比較され、皆様なりに時代変化を感じて頂ければと思います。



令和5年三商祭の素晴らしいポスター
美術部二年生の絵

三商祭が今も活気に溢れ斬新なアイデアで盛大に開催が継続されていることを、同窓生として大変嬉しく思っております。

今年で三商祭に名称を変えて六十七年目、時代の変化に対応し新鮮な発想で三商祭が進化し、三商時代の思い出に残る最大の行事として、更なる発展を遂げることを心より願っております。

八、東雲会とは

昭和二十年代半ばに発足した、三菱電機㈱に入社した三商同窓会で母校の隣の地名「東雲」をとって「東雲会」と名付けた親睦会です。第五期の故相沢健一様、第六期故木根 慶蔵様、第十一期故中野護様他ピーク時には三十六名の会員を有し七十有余年

の長きにわたり、先輩後輩をお互いに尊重し合う同窓生の交流の継続が、令和六年三月に思いもよらぬ「三商祭誕生の発見」につながり、これまでの輪と絆を改めて感じた次第で一生に残る心温まるメール交換の交流でした。

（注）東雲会の活動は、会報三商創立九十周年記念号（五七号）に「東雲会の歩み」と題して寄稿していますので、再度ご一読願えれば幸いです。

「あとがき」

今回の会報への寄稿文執筆に際しては、東雲会員の皆さま歳相応に何かとご多忙にも拘らず、六十有余年前の資料や記録を一生懸命探して頂き、電子メールを活用し十日ほどで当時の三商祭の思い出等の情報をご連絡頂き、また後日追加の情報も頂く等電子メールの威力を改めて再認識致しました。

三商の「三」という数字は、平安時代の陰陽道の考え方から、とても縁起の良い数字として知られていますが、この寄稿文は、三商同窓会の「三」、三商祭の「三」、三菱電機㈱東雲会の「三」、三三三揃った、めでたい寄稿となりました。

また三商祭と言う大行事を同一テーマとして、第一回から六回まで先輩後輩七名の総力を結集しまとめた寄稿は、同窓会として初めてではないでしょうか。

これも三菱電機㈱の社内三商同窓会「東雲会」が昭和二十年代半ばに発足し今日まで七十有余年続いていること、まさに「東雲会と第二十七期有志の会及びクラス会のご縁、会員相互の輪と絆」が結集した寄稿となりました。

萩尾先輩から、「世の中は何事も “縁と運” と

思っています、今回は更にその感を深くした、まさに仲田さんは「縁結びの神」といったところですね。」とのお言葉を頂きました。

ここに世界に一つしかない「三商祭の誕生と思い出」の寄稿文が完成出来たのも、情報及び寄稿を賜りました田中先輩、萩尾先輩、大木先輩、森平君、近藤さん、馬場さんのご協力もさることながら、我々が三商で学んだ昭和三十年代、ご指導賜った先生の皆様のご薫陶あつての事、よって本寄稿文をご指導賜った先生方に捧げたいと思います。

人生百年時代、これからシニア世代に入る同窓生のみな様、どうぞ同窓会の行事や同期会・クラス会・OB会等々への積極的な参加と、同じ趣味を持った仲間作り等を通じて健康寿命維持に取り組み、有意義な第二の人生をお過ごしになられますようお願いと共に、同窓会と母校の更なる発展を祈念申し上げます。

(令和六年五月吉日 第二十九期仲田元昭)

同窓生へのお願い

「三商祭の誕生と思い出」の寄稿にありますように昭和三十二年第一回三商祭のプログラムが、同窓会にも母校にも見当たらない可能性が高く、教育関連参考資料として引き続き探しております。断捨離等の折、見つけましたら同窓会に寄贈願いたくお願い申し上げます。

三商同窓会事務局
連絡先・三商同窓会事務局

〒135-0046 東京都江東区牡丹1丁目12番8号
電話・03(3643)3392

FAX・03(3643)3396

メールアドレス・info@tc saa.jp

第二十九期同期会での縁(その二)

― 人社同期の再会と街歩き ―

第29期 仲田 元昭

第二十九期第十二回同期会(平成二十三年十一月開催)のご縁で、六十年ぶりに小学校のクラスメイトと再会を果たせたことは、昨年第六十一号会報に寄稿し掲載されたが、今回は令和四年十一月十七日東京ガーデンパレスで開催された第十七回「卒業六十年並びに傘寿祝い」最後となる同期会のご縁で、新たに再会継続を果たすことが出来たことをご紹介したい。

最後の同期会とのことで他のクラスの方ともお話しが出来ればと思い、開会の四十分程前に会場に入ったが、すでに三十名程が受付周辺や会場内におられた。同期生各位も小生と同様のお考えの方も多かったのである。

三菱電機(株)の社内三商同窓生の親睦会「東雲会」の同期三人全員が、同期会に開会四十分程前に会場入りしていた。四組の長尾 将男君(旧姓三谷)とは二十年振りの再会、五組の島村 正博君とは三年振りの再会である。三人以上が同じ製造企業に就職し、その全員が最後の同期会に揃って出席したのは、我々のみである。

就職した時の会社の売上高は千五百十一億円、現在の売上高は、五兆二千億円(三十四倍)とグローバル企業に成長、好・不況の荒波を乗り越え我々も会社と共に仕事と共に成長し、長尾君は宣伝部門で島村君は世界を相手に輸出部門で活躍され定年まで立派に勤め上げ、高度成長に貢献し校歌にある「日

本の富を担うわれら、都の栄えを築くわれら、江戸の誇りを継げるわれら」を実践してきたつもりである。

さて再会の内容だが、開会前に早速三人立ち話で近況を報告し合った。誰からともなく三人で一度ゆっくり会いましょうとの話となった。長尾君(千葉市在住)は元気ではあるが東京まで出かけるのはチョットとの話から、お互いの健康寿命維持のため船橋の街歩きをした後に懇親会しようとの話に即決まり、時期は来春頃(令和五年)とした。

▼「第一回東雲会同期街歩き―家康と船橋―」

令和五年の春になり日程調整の結果、六月二十日JR船橋駅改札で待ち合わせる事になった。十五分前に小生は改札で待つて居たが、十分前には全員揃った。地元の私より先に来てはとの細やかな配慮と受け止めた。

街歩きのコースは、昨年大河ドラマ「どうする家康」にちなんで、「家康と船橋」をテーマに令和五年四月二十日一組の有志四人をご案内したコースと同じ、今回は特に江戸との比較をしながらご案内した。

①江戸と船橋は地形的によく似ている事(武蔵野台地の端と下総台地の端)

②家康にとつて東からの防衛、里見氏への睨みを利かせる場所として船橋を重視したともいわれている事(東金御成街道を佐倉藩主に命じ造営)、

③船橋には家康の側近で長久手の戦いで軍功を上げた成瀬正成を初代城主(後に初代尾張徳川家附家老、犬山城初代城主)とした小栗原城があった事等も交えご案内した。

二時間程で街歩きを終え、場所を変えての懇親会に

入った。健康寿命維持の取り組み（島村君・山登りの会でご活躍、長尾君・太極拳の会に二つ入りご活躍、仲田・街歩きの会に二つ入り代表と理事に就任し活動中、コロナ禍前まで十五年間水泳年間三百㎞）や島村君からは地元八王子には、北条氏の三代目北条氏輝が築いた国史跡の八王子城跡があること、家康が西の防御として八王子千人同心を置いたこと等々歴史談議にも花が咲いた。

我々も傘寿を過ぎ残された人生を健康に楽しく過ごそうと意見が一致、今後もお互い健康な内は、街歩きを通じ交流を深め互いの健康寿命維持に取り組みべく、次回二回目は涼しくなる秋に成瀬正成城主の小栗原城跡や成瀬家の菩提寺等西船橋周辺をご案内することにした。

▼「第二回東雲会同期街歩き」

計画通り、令和五年九月二十六日薄曇り気温二十七度と街歩き日和に恵まれ第二回街歩きを行った。島村君が前々日に腰を痛め残念ながら欠席となったが、長尾君と二人でのんびりと家康の側近船橋で最初の大名成瀬正成の小栗原城跡や成瀬家の菩提寺宝成寺等、JR下総中山駅より西船橋駅まで約四km二時間のコースをご案内した。

長尾君は太極拳と毎日のウォーキングで足腰を鍛えられ比較的速足で、私も速足につき歩調が合い二時間のコースを一時間四十五分で歩き終えることが出来、楽しい懇親会に入った。

お互い企業戦士であった会社生活の苦労話や成功談そして家族状況等々互いの人生を語り合い、会社と共に仕事と共に成長し家族の支えもあり、校歌にある「日本の富をになうわれら」の役割を十二分に果たせたと互いに自己満足した次第である。

▼「母校の更なる発展を思う」

長尾君は、お兄さんも三商で銀行に就職され、就職なら三商と目標を定め入学を目指したとのこと。偶然にも小生の兄と同期であることも不思議な縁である。当時の三商は大企業への就職率トップクラスの商業高校であり、中学生のあこがれの的で兄弟・姉妹揃っての三商生は非常に多く、現在の母校はもうなっているのかと長尾君は心配されていた。

そこで、メルマガに個人投稿している関係から、小生も母校の事が気になり、都立商業高校三校の時系列大学進学率を調査し（各校HP公表数値より小生が集計分析）、資料を持ち合わせていたので長尾君にお見せしたら、やはりそうですかと母校の更なる発展について話し合う機会になった。

商業高校の教育目標が定められており、大学進学率だけを商業高校の評価ポイントにするのは危険であるが、入学希望の中学生が増えるような更なる魅力ある三商にすることが先決ではないかとの考えで一致した。

教育のレベルアップには時間がかかるので、企業内人材育成同様に五年、十年、十五年計画で取り組む問題だとの結論が本日の話しであった。

母校の更なる発展を思う同期生が多いことを実感した有意義な一日であった。

シニア世代になられた同窓生の皆様におかれては、同期会、クラス会の継続的な開催と同窓会諸行事への積極的な参加により、新たな交流の輪が広がり有意義な楽しい第二の人生になることを願っている。

父の思い出

第26期 岩瀬 和子
(旧姓 坂口)

父は六十三歳であつて亡くなってしまいました。私は日本生命のOLだったので日曜日は朝寝坊をしていました。母が「ちよつと来て」と慌てた声で起こされました。十時でした。父が布団から落ちていました。母と布団に寝かせて、私はかかりつけのお医者さんへ自転車でかけつけました。運よく先生がいらして、すぐ行くと云って下さったので家へ戻りました。近所に住んでいたおば夫妻や仲の良い友人達もかけつけてくれ、皆さんに看取られ四時に息を引き取りました。

普段父は血圧が高く、お医者さんの薬を飲んでいました。晩酌は二級酒の決まった銘柄のお酒をお燗にして飲んでいました。一級酒は翌日までだったのでだめだと云っていた。同業者の会合以外で飲むことはありませんでした。

亡くなって三十五日目の頃、私は父の夢を見ました。汗をふきながら居間に入ってきた父に母が「私達これからどうすればいいの」と聞いた。「それに頼り生きていけばいい」と父は云いました。母は父に頼りきりだったので私も話しかけたかったが目覚めてしまいました。

「霊は三十五日、家の棟をはなれない」と祖母から聞いていたので父が夢になってあらわれたのかなと思いませんでした。大きな声で叱ったり、手をあげたりすることはありませんでした。居間で弟達がけんかして泣いたりすると、仕事場から来て「どうした



んだ、泣くんじゃない」と云い、母に叱られて泣いていたら母に子供を泣かすんじゃないと母が怒られていました。弟達が母の云うことを聞かないと「出て行きなさい」と叱ったりすると父は「子供に出て行けと云ってもどこへ行く所がないだろう。そんなことを云うんじゃない」と母に云っていました。子供をよく叱る人がいて、父は食事の時に「けっして怒ってはだめだよ」とも云っていました。父はつりが好きでした。帰って来ても何もしないので、母がつり道具を洗ったりかたづけたり、釣つて来た魚の処理をしたり大変でした。年末友達やおば達がハゼの甘露煮を楽しみにしてくれていたのので父はとても喜んでいました。

浦安三社祭

第31期 西邨 昭一

浦安と云えば皆さんは、「東京ディズニーランド」を連想すると思いますが、浦安の元町には、大正時代から浦安三社（清瀧神社、豊受神社、稲荷神社）合同で行われる「浦安三社例大祭」通称「浦安三社祭」という伝統行事があります。

三商が所在する深川地区も、江戸三大祭と称される富岡八幡宮の別名水掛け祭と呼ばれる「深川八幡祭」は有名ですが、浦安三社祭もその規模では勝るとも劣らないものです。

このお祭りは、4年に一度執り行われますが、前回はコロナの影響で中止となり、今年は8年ぶりの開催となりました。6月14日の宵宮から始まり16日まで3日間、5基の宮神輿を中心に自治会の神輿など100基を超える神輿や山車が元町を練り歩く姿は迫力満点です。

私も、居住する東野地区の祭連合会の役員としてお手伝いをし、心地よい疲れを味わいました。因みに、当自治会には、同期の倉谷誠一氏、35期の山本健次氏が居ます。

ところで、祭の掛け声と言ったら「ワッショイ」「セイヤー」などですが、浦安三社祭の掛け声は独特で「まえだー！まえだー！」です。漁師町ならでの荒い気質もあり、昔は互いの神輿と神輿をぶつけ合う喧嘩神輿が祭の華であり、その後、一時期事故や不況等があり昭和30年代から一時中断されていました。昭和49年6月から復活しました。「まえだー！まえだー！」という掛け声は、暴れ神輿といわれて寄付金の少ない店先や民家に突入したりして、なか

なかに進まない神輿を真つすぐ進めるために、「前だ、前だ」と掛けられた掛け声に由来しているものと言われています。（他に諸説あり）また、担ぎ方も独特で、神輿を地面すれすれまで下げ回転する「地すり」や神輿を一斉に天高く手放す「放り」など、迫力満点です。また、浦安三社祭では女性だけで神輿を担ぐ「女神輿」があることも有名です。祭りの締めくくりは、「砂つぱたき」です。浦安では打上げのことをそう呼びます。

「砂つぱたき」とは、旅から無事に帰り、旅の砂



を落として旅の余韻や仲間との親睦を深め、食事をしたたりお酒を飲んだりして、お疲れ様の意味を込めた集まりを言いますが、浦安では昔、祭りの後は砂

浜で打上げをしたんでしようかね!!
 今は、8年振りの浦安三社祭が事故もなく盛大に執り行われたことに安堵しつつ、4年後の浦安三社祭に思いを馳せる今日この頃です。!

日本の富を担ふわれら

同窓会会長

第31期 三浦康二

私達の母校都立第三商業高等学校は1928年1月31日の設立よりその歴史が始まり、激動の日本の発展と共に伝統を築きながら96年の歩みを続けているのであります。

悠久の流れ、それは大河、都立三商より巣立った水の流れは、英知と勇気を養いながら各分野の社会へと奔流となって大海へと流れ込む大河であり壮大なドラマである。校歌にもあるように「日本の富を担ふわれら」偉大なる教育者の言葉に「自分自身が向上すればより良き社会に貢献できる、人々の幸福に貢献すれば自分自身も幸福になれる」三商同窓生の多くの方々があらゆる分野で日本経済を支え、実社会で活躍をされた事を紹介します。

「三商人脈を探る」(1期生〜16期生)
 第5代校長 清田榮一氏の記録より

《1977年当時全て敬称略》

〈就職した企業の役員になった人達〉

- 1期 大貫保雄(日立電線副社長)
- 平野昌(日本鉱業専務)
- 沼田種泰(三井不動産専務)
- 雨森博司(新潟交通専務)

- | | | | |
|-----|-------------------|-----|-------------------------|
| 2期 | 山崎壽(東洋実業社長) | 14期 | 長橋清(三星産業取締役) |
| | 栗原弘(後樂園スタジアム専務) | | 大山忠勝(東京都民銀行取締役) |
| | 藤兼久(大日精化工業常務) | | 秋元秀介(井上工業常務) |
| | 山慎六(中央物産常務) | | 茂木孝之(セキテイ商事専務) |
| 3期 | 石塚一夫(内外製鋼所社長) | 15期 | 篠原保(金谷ホテル観光常務) |
| | 磯達夫(千葉興業銀行取締役) | | 茂木進(常磐運輸社長) |
| 4期 | 佐治正三(日本油脂副社長) | 16期 | 北島新六(国分取締役) |
| | 小倉一郎(埼玉銀行常務) | | 秋山尚彦(東京コンタクトレンズ専務) |
| 5期 | 水島重雄(パレスホテル常任監査役) | | 〈家業を継承して拡張発展させた人達〉 |
| | 青木正行(亀ノ井バス常務) | 1期 | 岡田一郎(岡田製作所) |
| 6期 | 藤井彦吉(日本鑄鍛鋼常務) | | 秋山清(富士琺瑯工業) |
| | 西村昌三(榮化精工常務) | 2期 | 亀井清蔵(亀清材木) |
| 7期 | 吉田光世(日新運輸倉庫常務) | | 長崎義信(長崎印刷) |
| | 鬼頭誠一(三井物産取締役) | 2期 | 遠藤喜夫(矢野松) |
| 8期 | 小平安雄(千代田化工建設取締役) | 4期 | 窪田甚之助(山形屋海苔店) |
| | 落合一男(東京観光専務) | | 都築進次郎(入船堂) |
| | 榎本三郎(三楽オーシャン取締役) | | 大前益太郎(大益) |
| | 松村武雄(丸善石油取締役) | | 川口昌義(川芳メリヤス) |
| 9期 | 西村彦一(三洋証券常務) | | 白井幸雄(昭和特殊硝子) |
| | 高木秀卓(東京海上火災保険取締役) | 3期 | 平井幸雄(珍粋) |
| 10期 | 山田慶蔵(太平洋海運取締役) | | 都築健一(入船堂本店) |
| | 井佐研三(合同製鉄取締役) | 3期 | 高橋逸平(第一帆布) |
| 11期 | 高沢寅雄(積水化学工業常務) | | 香取榮一(香取宝飾) |
| | 大森保夫(図書印刷常務) | 5期 | 松下新太郎(岡埜栄泉) |
| | 大沢淳二(安田火災海上保険常務) | | 小泉一兵衛(赤札堂 A B A B グループ) |
| | 日暮武(服部時計店取締役) | 6期 | 長谷川正三(長谷川香料) |
| | 中島健作(大洋漁業常務) | | 小家敏男(日の出文具) |
| | 大沢俊太郎(敷島紡績取締役) | 6期 | 井上一雄(東方紡織) |
| | 加藤正俊(文具サトダ社長) | | 海宝誠(佃平) |
| 12期 | 斉藤芳二郎(神田通信工業取締役) | 7期 | 土井順壹(羅紗) |
| | 島田豊治(教育出版取締役) | | 横山華久郎(人形の久月) |
| 13期 | 福島勲(川岸工業社長) | | |

栗原孝 (イケダヤ靴店)
浅川喜平 (浅山商会)
荒井貞次 (金鈴社印刷)
堀江武三 (酒悦)

8期 西山良雄 (大広ゴム)
神谷金郎 (松銀材木)
9期 野村芳朗 (野村トイ)

竹沢誠二郎 (辰美建材)
丹野喜久雄 (清雅堂印房)
10期 山田澤三 (大洋電機)
川合義孝 (川合工業)

古川恵一 (古川化学工業)
岡本幸金 (岡本機械)
岩井武 (岩井工業)

小林哲 (小林アイロン)
持田政雄 (モダン時計)
11期 吉田栄弥 (吉田建材)

成田政之 (東都商事)
田中一雄 (田中商事)
12期 井門昭二 (大丸百貨店)

鈴木義雄 (鈴屋)
笹岡正治 (笹岡薬品)
13期 五十嵐亮二 (英雲堂印刷)

14期 村松昭男 (協栄製本)
15期 田原源一郎 (田原屋旗幟)

16期 穂苅幸夫 (常盤堂)

〈大学の教授として講壇に立った人達〉

東京大学 12期 稲葉三千雄、15期 山崎利男
東京学芸大学 2期 津谷彰一
東京商船大学 7期 石井貞修
横浜国立大学 8期 加島祥造

北海道大学 13期 本田錦一郎
群馬大学 11期 鈴木光雄、16期 都築佑吉
筑波大学 12期 芳賀登
高崎経済大学 16期 竹内雄一郎

三重大学 8期 井上琢美
早稻田大学 11期 並木美喜雄、13期 望月昭一、
13期 日下部興市

慶応大学 13期 坂本幸児
明治大学 15期 岡野加穂留、15期 山崎賢一
中央大学 1 2期 山中隆次
成蹊大学 12期 芦川長三郎

上智大学 16期 大谷啓治
日本大学 12期 田中鎮雄、14期 出口吉昭
中央学院大学 11期 高木幸道

共立女子大学 11期 柏木希介
愛知大学 12期 加藤俊夫
南山大学 7期 長坂源一郎

法政大 5期 尾坂徳司、6期 小峰王親

〈高等学校・中学校・小学校の校長、教頭となった人達〉
高等学校長 12期 斎藤克
高等学校教頭 10期 山根茂、13期 山口武夫
中学校長 16期 内藤茂

中学校教頭 10期 竹田一郎、11期 村林敏三、
16期 奈良剛
小学校教頭 11期 浅井護

〈公認会計士、税理士となった人達〉

1期 歌代一郎
3期 白岩国男
4期 鈴木直行、石田五郎
5期 好川榮一

6期 下道吉雄、斉藤良雄
7期 岸本膝次、高木菊次郎
8期 佐々木万普、西山隆
9期 榎本幸一郎、遠藤忠三
10期 帆足誠、山崎順三、大森文吉、平野欣司
11期 宮川隆一、岩崎功

12期 吉田昭二
13期 柏義光

14期 武藤智夫、内田清次郎、福田富輝、高瀬利夫
16期 和井内清、田代保之

〈検事・判事・弁護士となった人達〉

・検事

12期 岩下肇

14期 椎名啓一

・判事

14期 糟谷忠男、鈴木孝一

・弁護士

2期 松山雄護

11期 宮田勝吉

13期 津谷信治

14期 岡安秀

15期 浅野義治、山崎賢一

16期 高野清

〈都・区・議会議員となった人達〉

・都議会

10期 中川儀郎

11期 伊藤嘉平

13期 大橋秀雄

14期 宇田川芳雄

・区議会

4期登内実
8期鈴木重男
11期林登喜蔵

以上、昭和3年より23年までの20年間に亘って三商生活を過ごした1期生から16期生に及ぶ同窓生の一端を紹介したものである。

同期会報告

23期同期会
卒業(最後)懇親会を開催

第23期幹事代表小暮 清

令和6(2024)年4月15日月曜日正午より上野東天紅で開催しました。

平成30(2018)年「傘寿を祝う会」を開催後、令和2(2020)年「長寿を楽しむ会」を企画、開催する寸前にコロナ蔓延となり中止。

昨年コロナが落ち着き同期会開催の機運が高まり各組幹事が集合して検討、プランクの6年間で80代にはいかに大きかったかを痛感しながら今後の開催を危惧するところとなりました。

平成18(2006)年「卒業50周年を祝う会」で蘇った本会も、今回をもって誠に残念ですが卒業・最後とすることに決定しました。

再開第1回から平成30(2018)年第7回までの14年間ご臨席賜りました7組担任山田泰義先生は、誠に残念ですが平成31(2019)年2月91歳で、鬼界に旅立たれました。

思い出深いご祝辞は、先生が88歳・米寿、我々生

徒が77歳・喜寿を祝う会で、

「皆さんが生まれた昭和12(1937)年は、後に日中戦争に発展した「盧溝橋事件」が起きた年で、それから戦争の足音が大きくなり太平洋戦争へと進み、戦後の貧しさを味わい、昭和31(1956)年の経済白書に「もう戦後ではない」との文字が発表された年に皆さんは三商を卒業しました。

その年の就職環境は良く大企業を始め多くの企業からの募集があり、スムーズな就職活動でありました。

その後皆さんは、ご活躍をされ本日77歳・喜寿を祝う会に元気に集まれた事を嬉しく思いお祝いを申し上げます。」との祝辞が印象にあります。

さて、今回の出席者は、卒業生473名(男子415名・女子58名)の内男子32名・女子8名・計40名の参加でした。

総合司会の小暮の挨拶に始まり、関係物故者の方々、並びに本年1月1日に発震した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福を祈って黙祷を捧げました。

会場に能登半島地震災害義援金の募金箱を設置し募金をお願いしました。

9組大石幹事の開会の挨拶並びに乾杯の音頭で和やかに会が始まりました。

6年振りの会合、組別テーブルで加齢と共に多病息災や一病息災など健康と病気の話題を始め、配布された各組別の記念小冊子に掲載された先生方の写真・組の卒業写真・修学旅行・各部活の仲間達との写真・新旧校舎の写真等々で懐かしさと思い出話が飛び交い楽しい懇親が続きました。また、前回までの食事、飲物はビュッフェ方式でしたが、加齢を考

慮して今回は着席コース料理方式としたので食事と会話の時間がゆったりと進みました。

戦後の食糧難時代を遅く生きてきた86歳は、まだまだ「老いてはいるが老人ではない」をモットーに2組三矢幹事と女子の指揮で恒例の「舟木一夫の高校三年生」を全員で合唱、ムードを盛り上げ第1部のカラオケタイムに突入した。

司会進行・4組・栗林幹事

各組エントリーされた方々から、昭和の名曲・旗輝

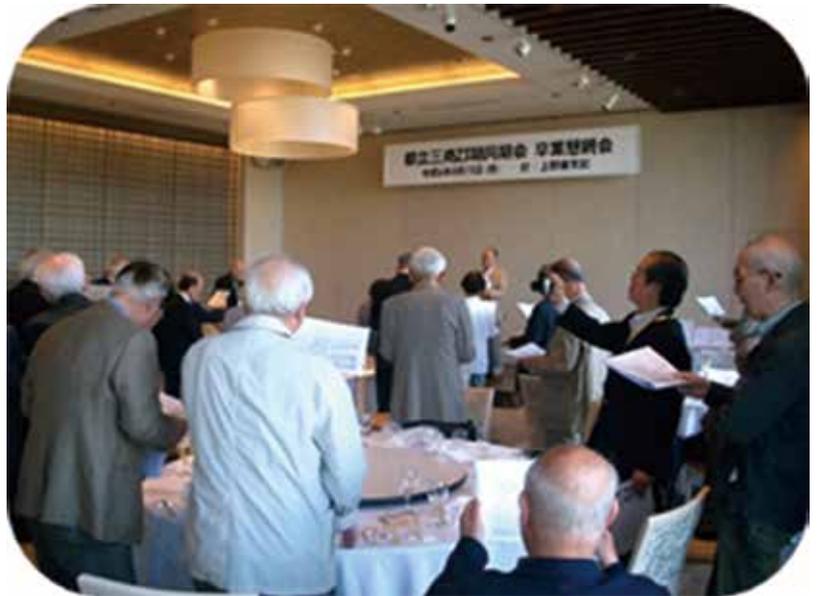




夫のあいつ・五木ひろしの細雪・欧陽菲菲のラブ・イズ・オーバー・長山洋子のじょんから女節・等々が熱唱され86歳とは思えない素晴らしい歌声を聴いて大いに盛り上がりました。

第2部は、恒例のビンゴゲーム・司会進行・1組・鶴巻幹事

今回は、歓談の時間を多く取るため、賞品は第1位から第8位までとした。数字の発表を聞き間違いの無い様チョット真剣に取組みハラハラドキドキの結果、第1位から7位までは重複当選者も少なかった



が、第8位は4名のジャンケンで決定する混戦で楽しいひと時を過ごしました。

第3部のカラオケも、一部割愛して、部活仲間との懇親や記念写真の撮影等皆さん活発に移動して理想の卒業懇親会が展開されました。

楽しい時間は短く、小暮より同窓会報告がなされ、19期から始まった特集が来年8月発行予定の同窓会報の特集が23期となっているので皆さんに、多く投稿してほしい旨、小冊子記載の通りに投稿する様お願いしました。

愈々時間が迫り校歌を2組三矢幹事の指揮のもと全員で合唱、いろいろな思いがこみ上げ声が震えました。



いよいよ23期卒業懇親会も中締め時間となり、2組の皆川幹事により一本締めでお開きとなり、無事全員卒業出来ました。卒業おめでとうございます。今後はクラス会を中心に活躍下さい。最後に能登半島地震義援金は、皆さんのご協力により金2万3千円が集まり、石川県令和6年能登半島地震災害義援金口座に郵便局から振込で寄付しました。ご協力ありがとうございました。

28期最後の同期会を
開催しました!!

第28期 若月 健司

我々はあの高くそびえる時計台のある校舎を卒業してから六十年余を過ごしました。その途中から四年毎に開催してきた二十八期同期会ですが傘寿を超えたこの機会に際して会員の中から高齢化による体力不足や老々介護などの諸事情によりこの同期会開催に一区切りつけようではないかとの声が出始めました。

そこで令和五年七月にクラス幹事会を開催し検討した結果「最後の同期会」を令和五年秋に開催することとしました。併せて今後は規模を縮小した集まりの開催を実施することを申し合わせました。

最後の同期会開催概要

日時・令和五年十一月三日(土・文化の日) 十二時～十四時三十分

会場・東京ガーデンパレス(お茶の水駅近く)

参加者・七十九名(男性五十四名 女性二十五名)

一組八名 二組十三名 三組十名 四組十一名 五組五名 六組八名 七組八名 八組七名 九組九名

式次第・敬称略

①司会・開会の辞 鈴木孝一(七組) 情報通で

同期会の中核人物 司会役は最適

②校歌 田端彰(八組) 同期会の盛り立て役

同期会役員経験者

③挨拶 伊澤宏祐(八組) 在校時の生徒会会長

同期会役員経験者 卒業以来二十八期同期会を

牽引

最後の同期会及び今後についての説明あり

④乾杯 関口利男(三組) クラス幹事会で大活躍

懇談時間に入る

⑤シヨータイム 長瀬可織く六十八期の同窓生

ミュージカル俳優・オペラ

俳優・声優として活動中 三商同窓会評議委員会

員

同窓会新年会出席 ・今回は二曲披露していただき

ただき参加者から好評を得た

*出演に先立ち若月健司より経緯を説明・令和元年

二月の同窓会新年会で長瀬さんを知り、先輩後輩

の交流を深めて尚一層の同窓会の発展を期したい

ので出演依頼した

⑥同窓会報告 若月健司(七組) 同窓会理事の

立場から活動状況の説明

理事会・評議委員会・新年会・校歌祭・三商同窓

会報・母校との交流など

二十八期現役員の紹介

理事 吉沢靖子(四組) 若月健司(七組)

評議員 北島朝子(四組) 土屋勇(七組)

⑦応援歌 田端彰(八組) TCSの魂は衰えず、

全員声を張り上げて!!

⑧閉会 若月健司(七組) これまで同期会開催

に大きな貢献をした伊澤宏祐に対し拍手で謝意

を表した

名残惜しいがこれからの人生を大切に過ごしてい

きましょう!!

散会

追伸 今後について

去る十二月十六日午後クラス幹事有志で「三商二十八期長寿連絡会(仮称)」と称して今後について話し合いました。その結果

①名称「三翔会」とする(候補は数件あるも三商の三と翔を組み合わせた)

②会の構成・二十八期同期生のゆるやかな同好会

③目的・同期生の長寿を願い、ともに努力する会合の場を提供する

④役員・代表一名 伊澤宏祐(八組) 副代表一名

若月健司(七組) 会計二名 吉沢靖子(四組)

加藤トメ子(一組) クラス委員九名以上(各クラス)

⑤会員・過去の同期会参加状況を勘案すると百名前後となる

⑥会の開催時期 第一回は令和六年十一月二十八日

第二回目以降は令和七年を除き毎年三月二十八日

!とする 八十八歳頃までの開催を目途とする

⑦会費は五千円く六千円以内で企画したい

⑧会合には落語・講談・歌・講話などを組み込みたい

以上。

26期同期会開催報告

第26期 高橋 駿輔

タイム・フライズ!時の経つのは早いもので、私達26期生には今年7回目の干支が巡って参りました。

昨年と同日同場所の六月十三日東天紅上野6階宴会場で眼下に緑豊かな不忍池を見下ろしながら33回目の同期会を開催いたしました。

私達26期は転番制で当番幹事を務めることになっていて、今年本来なら4組が当番幹事に当たって

いましたが、4組の出席人数が少ない為、急遽5組と合同で幹事を担当することになり5組の私が代表幹事を務めることになりました。コロナにより2年間のブランクがありましたので、実に11年振りの幹事担当でもあり、又、私自身も83歳と年を重ね毎日の自分の生活においても物忘れ、忘れ物の連続で、こんな私で代表幹事に任が務まるかと大変不安を抱えながらのスタートでした。

一、事前準備

そこで4組5組の出席者に幹事になってもらい、古田同期会々長以下、杉本、岩瀬さんの本部席にも同席願いの幹事会を2回開催しました。

(一) 第1回幹事会 (4月17日)

ここでは同期会当日までに準備すべきものを書き出し、また各自の役割分担を決定。収支については本部席から足を出さないようにと強い要請を踏まえて、会費について議論。前年度はアルコールを飲む人と飲まない人で差をつけていたが諸物価高騰の折り飲まない人には気の毒ではありますが、一律にせざるを得ないと結論。また出席者全員から「一言挨拶」をもらうことと、欠席者からの近況報告を「欠席者コメント」のペーパーを作成して出席者に配布することなど決定した。

(二) 第2回幹事会 (6月7日)

同期会当日の担当業務の中でも受付と会費徴収業務はスムーズに間違いなく処理しなければならぬ。私の記憶では以前は当番幹事以外でも女性がお手伝いしていたように思っていたが(実際そうだったかは確かでないが...) 最近は当番幹事が全て担っ



代表幹事、筆者 高橋氏

ている様子なので、全く経験のない大井一三君に責任者になってもらう。会費七千五百円のお釣りに対策は齊藤明子さん大井一三君に大量の千円札と500円硬貨を用意してもらい、私達幹事団はお釣のないように七千五百円丁度を持参するように確認した。また当日の配布資料用封筒を私が用意することも確認した。

司会進行については宴会時間2時間の中で如何に盛り上げながら進めて行くかこれも未経験の渡辺昭雄君の持前のキャラクター発揮に託すことにして凡そのイメージを打ち合わせた。今回の2回の幹事会の準備には昨年幹事の3組の深瀬君からの大変懇切丁寧な引継ぎアドバイスが役に立ちこれを下敷きにさせてもらったことを誌上を借りて感謝いたします。

(三) 同期会案内と返信の実態

発送作業の簡便さと郵便コスト削減の観点から、往復ハガキ形式にして4月15日に作成、発送を三商同窓会館の白石さんに依頼した。発送枚数は全97通。これは卒業時472名の20%にすぎない数字に複雑な思

いがする。また出席予定者が体調不良等の理由で欠席する場合のタイムリミットは同期会当日の3日前の6月10日に設定した。期日までに返信は82通(出席42名、欠席40名) 期日後に6通返信(出席1名、欠席5名) 88通の返信(出席43名、欠席45名) その後出席予定者から体調不良で2名が欠席になり、東天紅には41名で予約した。9通が返信なく気掛りである。

二、同期会当日 (6月13日)

いよいよ同期会がやって来た。早速ハプニングが発生した。出席人数41名分の封筒を用意した筈が全然足りない。齊藤さんから知らされ、しかも封筒の剥がすよう指示した為全く使いものならず、結局





配布書類は封入せず、むき出しのまま渡す羽目になった。これは全て私の軽率極まる仕事の結果であり、恥じ入る次第である。スタート早々嫌な空気が漂った。

(一) 受付集金

受付はキーパーソンと私が勝手に期待していた。さんが身内の介護の為欠席することとなり、大井君を中心に懸命に頑張った。杉本君の手際良い応援が本当に心強かった。また脆弱な受付体制を見かねてか、K君が受付に加わってくれた。結果的にK君が受付に加わったお蔭で大変助かることになる。と言

うのは開会時刻が近づいても2名の姿がない。幹事として最も恐れていたことは「記憶漏れ者」の出現である。昨年は3名の「記憶漏れ者」がいた由だ。その1名の情報をK君が知っていて「彼は事故で5月末に亡くなった」と。知らなければ、幹事として自宅に連絡するところであった。あと1名のF君については、私が受付から本人に架電して直ぐに繋がりタクシーを飛ばして20分後に合流「記憶漏れ者」の人数が去年より減じたことで26期末だに健在なりと意を強くした。39名の仲間今年同期会はスタートした。私達の年代が同期会を開くにあたり、当人のみならずご家族の健康状態にも大きく左右され、一方会場との人数の縛りの関係で直前まで一定程度この不確かさを覚悟しなければならぬことを



実感した。

(二) 式次第

定刻通り式次第に則り司会の渡辺輝雄君が進行。物故者への黙祷のあと「開会の挨拶」で私から長寿国日本の平均寿命が男性82歳、女性87歳で26期の私達は概ねその年齢にあるが世の中や「人生100歳時代」になる声がかまびすしい。しかし私達の年齢では心身ともに万全な人はまずいないので己を丁寧に向き合って行けば「タイムフライズ」であつという間に、今日出席の26期全員がセンチナリアン(100歳)になっているでしょうと。最後に言い難いことであつたが、会費値上げの件と酒豪の多い26期生にアルコールの注文を昨年より少な目にしたことをお話しした。この事は最後までどうしようかと迷ったことでしたが。その後古田同期会々長の挨拶、川田勝己さんによる乾盃の発生、懇談、全員からの「一言挨拶」2組の清水博君リーダーのもと校歌・応援歌斉唱し次回の当番幹事(6組7組)への引継、大井一三君による「閉会挨拶」、最後1組5組、6組9組の2班に分かれて記念撮影をして、一連の行事は終了した。幹事の斉藤明子さんには2回の幹事会を通じて非常に建設的な提案と、又同期会当日は配布資料の準備から受付集金等フットワーク良く活動してもらい大変助かりました。

三、当番幹事を担当して感じたこと

この26期の同期会を同期の皆さんが大変楽しみにしていることを感じました。それは出席者の「一言挨拶」からも感じましたし「欠席者からのコメント」でも体調が許せば出席したかったという人が少なからずいましたし、当日家族が会場まで付き添ってま

で出席した人、又当初出席予定者の中で体調不良で欠席を余儀なくされた人から当日の配布資料が欲しい等々。又、パーティー終了後喫茶コーナーで多くの人が1時間も2時間も楽しそうに過ごしていた光景が印象的でした。個人的には中学の同期会、勤務先の同期会が去年から今年にかけてクローズする中で若干弱気になっていた私の思いが完全に払拭されました。来年も東天紅で6月12日木曜日、6組7組豊田君、牧野君幹事で開催予定です。多くの方が参加されることを願っています。最後になりましたが、三商同窓会館の白石さんには大変お世話になりました。デジタル難民の私は全て手書原稿を渡すと手際良く見易いレイアウトにして多くの配布資料を作成してもらいました。感謝！



みごと傘寿に！人生百年時代
30期同期会報告

第30期 藤倉 久男

昭和三十八年に卒業した30期の同期会が令和六年四月二四日（水）錦糸町の東武ホテルレバント東京にある中国料理竹園にて四一名の出席を得て開催された。

コロナのために五年ぶりの開催となった。久しぶりの再会に開始時刻の十三時前に全員出席となり、今回は大体クラス毎に着席することにした。あちこちで会話が弾む。落合清秀さんの挨拶、乾杯の前に一分間の黙とうを捧げた。

「卒業してから六一年、早いもので傘寿八十歳をむかえます。あの懐かしい時計台の校舎から卒業した四四八名、各々の人生を刻んで今日ここに集うことができうれしい限りです。今日は思い切つて楽しみ旧交を暖めましょう。乾杯」ではじまった。

今回は貸し切りでなくホテル内ということもあり、鳴物は出来ず次回は音ができる会場としたいと思う。

30期は三味線ができる者、バンドを立ち上げた者、南京玉すだれ、かつぽれその他の芸達者が多いが今回回番はなかった。

二時間半でも時間は足りずホテル一階の喫茶コーナーでビールを飲む者もおり楽しく笑い声が続いた。

今回は案内の手紙を一六六人に出し、出席で届いたのが四二人。欠席の葉書が六三人、案内の戻りが十一人（このうち五人は幹事の一人が頑張つて住所を調べてくれた。感謝したい）出欠の返事はなかつ

たが案内を見た人は五十人。ぜひ次回は出欠の返信はしてほしい。

今回筆者は司会を務めさせていただいた。そこで感じたことと言いつたことがある。これは新聞に載っていたことで、漢字に「教育」「教養」の二文字がある。「きょういく」「きょうよう」と読むが私は朝起きた時にこれを「今日行く」「今日用がある」と読む。もうお分かりでしょう。予定がなければつぐればいいんです。これは認知症予防にもなります。同期の皆さん読んで頂いて感謝です。人生百年です。来年お会いしましょう。お互いにお元気で。



第31期 3年2組クラス会報告

第31期 西邨 昭一

爽やかな初夏の日差しが眩しい、去る5月26日に、第31期3年2組のクラス会を門前仲町の「東天紅深川店」にて開催いたしました。前回開催から6年ぶりのクラス会ですが、その間、数回開催を計画しましたが、台風やコロナの影響により開催を断念せざるを得ず、今回漸く、三商卒業60年という節目でのクラス会を開催する運びとなり、総勢13名（男性9名、女性4名）の参加者となりました。

会は川井幹事の開会の挨拶で始まり、クラス会を中断していた間に、前回出席者の内の3名の友が亡



くなったことが報告され、彼らを忍び献杯でスタート。

過去に開催したクラス会の写真アルバムを回し見しながら、歓談となりましたが、話題は60年前の三高時代の思い出や健康に関する話、近況報告等アツという間の2時間。

終盤に、同窓会長の三浦君から、今後の同窓生の行事、「同窓生の集い」「東京校歌祭」等の案内告知があり、最後に、川井、馬場、小沢幹事の労に謝意を表すと共に幹事が健在の間はクラス会を継続することを確認し、元気で再開できることを約束してお開きとなりました。

情報委員会 お知らせ

第22期 篠崎 清

まだまだコロナの関連した情報が収まる事のない毎日が続いておりますが

同窓生の皆様はお元気の事と存じます。

昨年発刊した同窓会報No.61号で本年の62号では21期と22期の合同で掲載する旨お知らせいたしました。が事務局の判断で今年の62号は21期の皆様のみとなりましてご報告させていただきます。

従いまして22期の皆様には来年の63号に掲載と決定いたしましたので

2025年5月が原稿の締切りですので時間はありますが一人でも多くの皆さんの寄稿をお待ちしております。

編集後記

4年以上不慣れた生活を強いられたコロナ過も、根絶とはいかないものの、以前に近い平穏な日々が戻

りつつあります。

以前は毎号、多くの世代からの同期会、クラス会、有志の会など楽しい様子が見られ、編集集部にも届いておりましたが、一転人々の接触が避けられる事となり、必然的に同期会報告がすっかり少なくなり、旧交を温める機会もお預けとなっていましたが、今号辺りからようやくぼちぼちとご報告を戴けるようになりました。

まだまだ気を遣う部分はあるかと思われ、次号はさらに多くの方のお元気を知らせたいと期待しております。

三商同窓会報第六十二号

令和6年8月1日発行

発行者

都立第三商業高等学校同窓会

発行責任者

都立第三商業高等学校同窓会 広報委員会

編集者

〒135-0046

東京都江東区牡丹1の12の8 三商会館4階

都立第三商業高等学校同窓会事務局

杉本 光男

電話 03(3643)3392

ファクシミリ 03(3643)3396

印刷所

オフィス岩瀬

活 動 記 録 (5年度)

No. 1

日付	曜日	摘 要	備考
5/4	7 火	入学式	
4	14 火	会計監査	三商会館
4	22 土	理事会	三商会館
		1 令和4年度 事業報告、会計報告の承認の件	
		2 令和5年度 事業計画、予算案承認の件	
		3 新年会の報告	
		4 「三商同窓会報」61号発行について	
		5 第31回「東京校歌祭」について	
		6 公益財団東京三商会の現況報告	
		7 その他	
4	30 日	東京校歌振興会 総会	小山台会館
5	17 水	「三商同窓会報」編集委員会	三商会館
5	27 土	定時評議委員会	三商大会議室
6	2 金	三商学校運営連絡協議会	三商大会議室
6	3 金	東京校歌祭実行委員会	小山台会館
7	22 土	「三商同窓会報」編集会議	三商会館
8	1 火	三商同窓会報(61号)発行	
10	26 木	東京校歌祭実行委員会	小山台会館
11	21 火	校歌祭委員会	東京三商会
11	30 木	三商学校運営連絡協議会	三商大会議室
12	3 日	第31回 東京校歌祭	国立オリンピック記念青少年総合センター
6/2	10 土	新年会	東天紅 深川店
3	8 金	卒業式	

令和5年度 会 計 報 告

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差額(B-A)/(A-B)	備 考
前年度繰越	7,067,498	7,067,498	0	
(収入の部)				
会費(91期)	1,750,000	1,399,120	-350,880	卒業生 140名
運営協賛金	20,000	10,000	-10,000	
事業収入	480,000	339,000	-141,000	
利息他	60	56	-4	
収入合計	2,250,060	1,748,176	-501,884	
[支出の部]				
理事・評議員会	150,000	79,960	70,040	
総会(同窓生の集い)	0	0	0	
新年会	300,000	368,356	-68,356	
校歌祭	210,000	172,220	37,780	
同窓会報	600,000	648,067	-48,067	
ホームページ	80,000	99,000	-19,000	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	198,489	1,511	
就職活動支援	100,000	150,000	-50,000	
母校支援	200,000	433,678	-233,678	懸垂幕の作成他
会合費	20,000	0	20,000	
慶弔費	50,000	0	50,000	
通信費	300,000	344,363	-44,363	
事務・消耗品費	80,000	1,450	78,550	
雑費	10,000	0	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	3,150,000	3,295,583	-145,583	
次年度繰越	6,167,558	5,520,091	-647,467	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	120,000	132,000		
2 「三商同窓会報」広告収入	280,000	171,000		
3 同窓生の集い会費	0	0		
4 校歌祭反省会会費	60,000	36,000		
5 その他雑務収入	20,000	0		
合 計	480,000	339,000		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。

令和 6年 4月 15日

会 計 渡 邊 秀 明

前年度繰越 1,604,002

一般会計(91期) 200,000

受取利息 13

収入合計 200,013

監査の結果正確である事を認めます。

令和 6年 4月 16日

監 事 古 田 勝 一

監 事 三 川 廣 志

差引次年度繰越 1,804,015

令和6年度 収 支 予 算 (案)

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日 (単位 円)

項 目	5年度予算額	5年度執行額	項 目	6年度予算額	備 考
前年度繰越	7,067,498	7,067,498	前年度繰越	5,520,091	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(91期)	1,750,000	1,399,120	会費(92期)	1,400,000	141名
運営協賛金	20,000	10,000	運営協賛金	20,000	
事業収入	480,000	339,000	事業収入	525,000	
利息他	60	56	利息他	60	
収入合計	2,250,060	1,748,176	収入合計	1,945,060	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	150,000	79,960	理事・評議員会	100,000	
総会(同窓生の集い)	0	0	総会(同窓生の集い)	100,000	
新年会	300,000	368,356	新年会	350,000	@7,000- 50名
校歌祭	210,000	172,220	校歌祭	260,000	*
同窓会報	600,000	648,067	同窓会報	600,000	
ホームページ	80,000	99,000	ホームページ	100,000	
活性化活動費	50,000	0	活性化活動費	50,000	
母校部活支援	200,000	198,489	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	100,000	150,000	就職活動支援	150,000	
母校支援	200,000	433,678	母校支援	200,000	
会合費	20,000	0	会合費	20,000	
慶弔費	50,000	0	慶弔費	30,000	
通信費	300,000	344,363	通信費	300,000	
事務・消耗品費	80,000	1,450	事務・消耗品費	25,000	
雑費	10,000	0	雑費	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	東京三商会	300,000	
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	3,150,000	3,295,583	支出合計	2,995,000	
次年度繰越	6,167,558	5,520,091	次年度繰越	4,470,151	

(校歌祭予算)
参加費・広告費 60,000
交通費50名@1,000-他 50,000
反省会費用30名*5000 150,000
計 260,000

(事業収入明細)
① 新年会会費 ¥3,000- 45名 135,000
② 三商同窓会報広告収入 280,000
③ 同窓生の集い会費 0
④ 校歌祭反省会会費 ¥3,000- 30名 90,000
⑤ その他雑務収入 20,000
合 計 525,000

令和5年度特別会計(周年記念事業)	
前年度繰越	1,604,002
一般会計(91期会費)	200,000
受取利息	13
収入合計	200,013
支出合計	0
差引次年度繰越	1,804,015

令和6年度特別会計(周年記念事業) (案)	
前年度繰越	1,804,015
一般会計(92期会費)	200,000
受取利息	13
収入合計	200,013
支出合計	0
差引次年度繰越	2,004,028

令和6年度 事業計画案

- 新型コロナウイルスが治まり平常に戻ったので、同窓会の活動も平常に戻す。
- 母校支援については例年通りとする。

1 定時評議員会

令和6年5月25日(土) 三商大会議室

2 「三商同窓会報」62号の発刊

投稿締切 令和6年5月末日(厳守) 発行 令和6年7月1日予定
今回も広告をたくさん募集する

3 第32回東京校歌祭への参加

日時 令和6年10月27(日)
会場 杉並公会堂

4 新年会

日時 令和7年2月 未定
場所 「東天紅」深川店

6 活性化活動

同期会開催のコーディネートに重点を置く

7 支援活動

母校支援(部活動支援、就職活動支援、その他)

9 「公益財団法人 東京三商会」については逐次報告する。

10 その他

(第21期) 平林 慶雄
 有限会社 平林油店
 灯油・軽油・潤滑油・配達いたします
 油の事ならご相談ください。
 本店・自宅 (03)3644-4487
 江東区南砂4-19-13
 南砂 S S (03)3644-6161
 江東区南砂3-4-5

S 190 mm × 260 mm
 全頁 (表4) 50,000円
 A 190 mm × 260 mm
 全頁 30,000円
 B 1275 mm × 190 mm
 1/2 頁 15,000円
 C 925 mm × 1275 mm
 1/4 頁 10,000円
 D 615 mm × 925 mm
 1/8 頁 5,000円
 E 44.2 mm × 61.5 mm
 1/16 頁 3,000円

当会報は、毎年の同窓会予算に加え、皆様からの広告収入が発送費及び印刷製本費の一部として運用されております。
 営利目的ではありませんので、長く料金を据え置き左記の価格で皆様にお願しております。
 広告原稿に付きましたは、当方で作成も可能です。(原稿作成費は無料)
 詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

みんな あつまれ!
同窓生の集い

日時
 10月12日(土) 午後3時~

場所
 東天紅 深川店 ☎3641-0125
 東京都江東区門前仲町 2-10-1
 ※東京メトロ東西線・都営大江戸線
 門前仲町 6 番出口 赤札堂 5 階
 落語 金原亭 馬生師匠
 参加費 4,000 円
 会報同封のご案内をご覧ください

総務委員会

Sugimotokouji
 株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉本 真一

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
 TEL 03-3623-2185
 FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・碎石
 生コンクリート・アスファルト 販売店

旬の肴
柳
 YANAGI

柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
 東京都江東区亀戸 6-23-10
 カーサカッシーノ 1F
 TEL 03-3682-0033

創業明治四〇年
 下町の味を伝えて一世紀

うなぎ
川 勇

高木 利夫
 (第三十三期)
 元史学部

〒130-0011
 東京都墨田区石原三・三〇・九
 TEL: 03-3662-1559
 FAX: 03-3662-1559
 E-mail: unagiya@comhome.ne.jp

ふぐ・鶏ちゃん・焼き鳥
鳥 義

墨田区石原 3-17-3-101
 電話 03-3626-4466
 FAX 03-3622-8349

30期
氏家 賢
 柔道部

<http://e-sumida.gr.jp/toriyosi/>

番号印刷専門 昭和13年1月1日開業

スドウナンバー

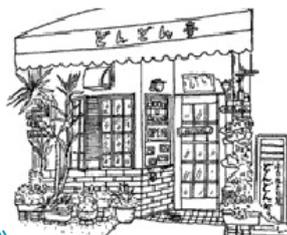
31期 須藤 義勝

〒104-0043 東京都中央区湊 2-3-3
Tel.03-3551-9078 Fax.03-3553-8486

関西風お好み焼き

とんどん茶

33期 坂口保夫



森下交差点角 すき屋並び

定休日月曜日 営業時間17時~23時

電話 **03-3635-4823**
江東区森下 2-18-1

みっま

住所 / 130-0022
東京都墨田区江東橋
4-20-4
TEL / 03-3631-0294
定休日: 不定休
河西紀道 第25期
(墨田区食品衛生協会会長)

(墨田区銘品名店会)

手打蕎麦



細田木材工業株式会社

顧問
細田安治 (19期)



合法木材供給
事業者認定
[輸入格-]

〒136-0082
東京都江東区新木場 2-5-3
☎03-3521-8701
fax03-3521-8708
e-mail: yasuji@woody-art-hosoda.co.jp
<https://www.woody-art-hosoda.co.jp/>



健康経営委員会
2022
Health and productivity

有限会社 みのる不動産

都知事 (14) 21090 号
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会 会員

代表取締役 **三川 廣志**

(第 3 4 期)

- 亀戸店 東京都江東区亀戸 7丁目 1 1 番 1 2 号 京葉道路面
TEL (3684) 5851(代) FAX (3684) 5850
E-mail: mk@e-minoru.com
- 本店 東京都江東区北砂 7丁目 4 番 3 号 環状四号面
TEL (3644) 7573(代) FAX (3640) 2543

公認 不動産コンサルティングマスター

西 邨 昭 一 (第31期)

一般社団法人 千葉県宅地建物取引業協会
公益社団法人 全国宅地建物取引業保証協会千葉本部
専任相談員

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-17-3 (千葉県宅建会館)
TEL: 043-241-6671 FAX: 043-245-0866

リサイクルショップ
てるてるぼうず
代表
大石 傑 一 郎

(23期珠算部々長)

曳舟本店 〒131-0032
東京都墨田区東向島 2-14-1
メゾンド大石1階
☎ 03 (3616) 2439 (代) FAX 03 (3861) 0067

自宅 〒111-0051
東京都台東区蔵前 4-28-5
蔵前大石ビル4階
☎ 03 (3861) 0084 FAX 03 (3861) 0067



街と住まいと
お客さまをつなぐ

不動産のことならご相談ください
住宅・事業用など
トータルサポート致します

【当社開発事例 イメージパース】
新築分譲住宅 全3棟
大雄開発『クリエーションシリーズ』

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(14)第26577号

 **大雄開発株式会社**

代表取締役会長 松岡雄治(第26期)

〒136-0072 東京都江東区大島1-29-6 アプローズ西大島101

TEL:5628-1511 FAX:3636-2292



物件情報満載HP

売買情報 <http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報 <http://www.daiyukk.com>
『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

中華 喜楽

江東区亀戸3-44-16
電話 03-3681-0563

天神様もお忍びで来るらしい! 亀戸天神そば
定休日月曜日(祝日の場合営業)
営業時間11時30分から20時 33期 長浜英行

おしゃれエプロンメーカー
有限会社 篠崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33

TEL047-334-5027 Fax047-334-5432

※社会情勢により変更あり
夜 十七時~二十一時
屋 十一時~十四時半
03(3833)4529
文京区湯島3-8-1

SAIKOU
菜肴
ますだ

とんかつ 申揚げ
かつ進

神田鎌倉橋店 03-3256-2984
外神田店 03-3832-2981

26期 増田進一郎
31期 増田トシ子

割箸・テーブルウェアで115年



株式会社

赤田本店

AKADA COMPANY, LTD.

代表取締役 赤田安司
(第34期)

住所 〒130-0004 東京都墨田区本所3-23-10
電話 03-3625-4184 FAX 03-3625-9399
メール akada-honten@mx5.ttcn.ne.jp

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一 (第26期)



傘寿から米寿へ

さん

じゆ

べい

じゆ

希望は燃ゆる若き、われら...

祝

昭和34年(1959年)なつかしの時計塔が
聳える校舎を472名で卒業した26期生(生存者350名程)は
令和2年~3年に80才の傘寿を迎え、これより先は88才の
米寿へとチャレンジして参ります。

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は
毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一